岡山縣女子師範學校教諭 伊藤光雄著

新編

岡山縣地誌提要

岡山

合資會社 細謹舍藏版

269
157

特20
238

新編 岡山縣地誌提要

凡例

一、本書は、小學校に於て鄉土地理及鄉土史談を授け、且つ地理、歷史等を敎授するに際し、鄉土との連絡及統一をして充分ならしめんが爲めに、敎師用參考書として著したるものなり。

一、本書は、之を各郡市別に編纂したるを以て、史談の如き彼此關係あるものは、其重なる郡市中へ編入せり。

一、本書は、單に、著名なる山川、都邑、港灣等の名稱をのみ

明治
45. 4. 19
内交

列記せずして、間々細事に亘れる事項をも挿みたれば、教授者の取捨撰擇を要す。

一、卷末に、小學校各科教材連絡表を附したるは、教授上參照の便に供せんが爲なり。

明治四十五年三月

編者識

新編 岡山縣地誌提要目次

第一編 總說

沿革……一
藩制一覽表……一〇
岡山縣郡市廢合一覽表……一二
位置……一四
面積及廣袤表……一五
地勢……一六
鑛泉……一八
海岸……二〇
氣候……二二
生業……二二
物產……二六
交通……二六
自治……三三
教育……三五
元標より各郡市役所への里程表……三六

第二編　備前國

岡山市

位置……三九
沿革……三九
町名……四〇
教育……四二
縣立戰捷紀念圖書館……四四
縣立病院……四四
官廳役所……四六
銀行會社……四七
舊藩學校址……四八
岡山城……五〇
岡山神社……五二
後樂園……五三
少林寺……六一
備樂園……六一
岡山孤兒院……六二
岡山博愛會施療院……六四
萬歲山國清寺……六五
佛住山蓮昌寺……六五
藥師院……六六
菩薩會孤兒院……六七
金光山岡山寺……六七
物產……六八
池田光政……六八

御津郡

宗忠神社……六九
富山城址……七一
備作惠濟會……七一
私立關西中學校……七三
岡山縣立種畜場……七三
備前一の宮、吉備津彥神社……七四
篠瀨神社……七六
第十七師團兵營……七六
玉柏の桃花……七七
笠井山妙法寺……七七
金山寺……七七
金川村……七八
金川城址……七九
妙覺寺……七九
虎倉城址……七九
加茂山……八〇
圓城寺……八〇
八幡溫泉……八〇
建部……八〇
町村名及戶數人口……八一

赤磐郡

瀨戶……八三
町刈田……八三
千光寺……八四
輕部……八四
八幡神社……八四
布都之魂神社……八四
龍天山……八五
布勢神社……八五
周匝……八五
澤原……八五
佐伯……八五
吉岡一文字……八六
和氣清麿墓……八六
町村名及戶數人口……八六

和氣郡

大內神社……八八
大瀧山福生寺……八八
三級瀧……八九
臥龍松……八九
伊部燒……九〇
片上町……九二
日生町……九二
閑谷黌……九二
閑谷神社……九三
熊山……九四
熊山城址……九四
和氣町……九五
安養寺……九五
天神山……九六
天神山城址……九六
和氣清麿の墓……九七
和氣清麿……九七
和氣廣虫……九八
芳嵐園……九九
和意谷池田家廟寺墓……九九
八塔寺……一〇〇
深谷瀧……一〇一
三石町……一〇一
三石城址……一〇二
坂長……一〇二
町村名及戶數人口……一〇三

邑久郡

乙子城址……一〇四
豐村八景……一〇四
浮根松……一〇五
和田範長の墳……一〇五

安仁神社……一〇六
弘法寺……一〇六
牛窓町……一〇六
牛窓本蓮寺……一〇七
砥石城址……一〇八
今木城址……一〇八
邑久村……一〇八
福岡城址……一〇九
長船……一〇九
虫明迫門……一一〇
犬島……一一一
犬島製錬所……一一一
町村名及戶數人口……一一一

上道郡

四山曹源寺……一一三
三蟠港……一一四
岩間櫻……一一五
西大寺町……一一五
金陵山西大寺……一一五
巨勢金岡墓……一一九
巨勢金岡……一一九
九蟠港……一二〇
國府址……一二〇
關白屋敷址……一二〇
最明寺苗址……一二一
龍口城址……一二一
地藏院……一二一
藤原部……一二一
藤本鐵石……一二二
町村名及戶數人口……一二二

兒島郡

藤戸渡……一二四
大橋……一二六
經ヶ島……一二六
浮州岩……一二七
藤戸寺……一二七
藤戸八景……一二八
常山城址……一二八
八濱七本槍……一二九
八濱水産試驗場……一二九
兒島灣……一三一
高島……一三一
小串……一三二
香田の立石……一三二
金甲山……一三二
宇野港……一三二
熊野神社……一三四

第三編　備中國

櫻井塚……一三四
五流……一三五
諸社寺……一三五
賴仁親王御陵……一三七
瑜珈山蓮臺寺……一三七
由加神社……一三八
田ノ口……一三九
唐琴の泊……一三九
天滿宮……一四一
味野町……一四一
味野鹽田……一四二
下津井町……一四三
釜島……一四三
生姬島……一四三
鯛網……一四四
町村名及戸數人口……一四四

都窪郡

撫川町……一四七
坪井梅林……一四七
妹尾町……一四七
早島町……一四七
帶江觀音……一四八
蓮光山寶福寺……一四八
帶江銅山……一四八
日間山……一四九
法輪寺……一四九
倉敷町……一四九
足高神社……一五〇
酒津燒……一五一
垂乳根櫻……一五一
輕部……一五一
青江鍛冶……一五一
安養寺……一五二
福山城址……一五二
國分寺……一五三
雪舟……一五三
造山……一五四
山手村の古墳……一五四
日差山鷹の巢城址……一五四
庚申山……一五五
眞壁……一五五
町村名及戸數人口……一五五

淺口郡

玉島町……一五七
玉島港……一五八
羽黑神社……一五八
圓通寺……一五九

甚取神社……一五九
寶島寺……一五九
蓑父ヶ鼻……一六〇
萬春園……一六〇
泉蹄院の櫻……一六〇
造照寺……一六〇
大谷金神……一六一
鴨方……一六二

小田郡

笠岡町……一六七
笠岡港……一六八
遍照寺……一六九
笠岡公園……一六九
甘露育兒院……一六九
神島……一七〇
高島……一七一
白石島……一七一
陶山岡城址……一七一
西山拙齋……一六三
加茂山城址……一六三
寄島港……一六四
沙美海水浴場……一六四
水島の戰……一六五
池田鑛泉……一六六
町村名及戶數人口……一六六
桃李園……一七二
高稱寺の楓……一七二
五花園の桃……一七二
小田渡……一七二
鵜江神社……一七三
矢掛町……一七三
丑寅神社……一七四
猿掛山城址……一七五
彌高山……一七五

彌高銅山……一七六
鬼の釜……一七六

後月郡

興讓館……一七九
永祥寺……一八〇
千手院……一八〇
花瀧……一八〇
天神山仰德園……一八一
天神溪……一八一
蛇穴……一八一
高末冷泉……一七六
町村名及戶數人口……一七七
清和寺……一八一
重玄寺……一八一
井原町……一八一
日芳橋……一八二
出部……一八三
町村名及戶數人口……一八三

吉備郡

庭瀨町……一八四
吉備津神社……一八五
吉備中山……一八八
吉備津彦命御陵……一八八
石舟……一八八
細谷川……一八八
藤原成親の墓……一八九
僧榮西……一八九
高松城址……一九〇
高松稻荷……一九一
縣立農學校……一九二
縣立農事試驗場……一九三

足守町……一九三
萩守宮舊址……一九三
鬼の釜……一九四
鬼の城……一九四
矢喰宮……一九五
血吸川……一九五
鯉嗜宮……一九五
服部……一九五
服部山城址……一九五
總社町……一九六
國府址……一九六

上房郡

高梁町……二〇三
松山城址……二〇三
願久寺……二〇四
八幡神社……二〇五
安正寺……二〇五
高倉山……二〇五
吉備保育院……一九六
總社……一九七
寶福寺……一九七
豪溪……一九八
八田部……一九八
刑部……一九八
吉備眞備……一九八
吉備眞備の墳墓……一九九
箭田の桃花……一九九
模範村岩田……一九九
町村名及戸數人口……二〇〇
鐘乳窟……二〇六
方谷園……二〇六
山田方谷……二〇六
室鳩巣……二〇七
町村名及戸數人口……二〇八

川上郡

山中幸盛墓……二〇九
深耕寺……二一〇
成羽町……二一〇
鷄首城址……二一一
布晒瀧……二一一
貝化石……二一一
穴小屋……二一二
模範村字治……二一二
吉岡鑛山……二一四
紫城址……二一五
穴門山神社……二一五
國吉城址……二一六
澤柳瀧……二一六
松原山……二一六
鏡ヶ瀬……二一六
町村名及戸數人口……二一七

阿哲郡

不動瀧……二一八
間歇泉……二一八
槇の穴……二一九
羅生門……二一九
新見町……二一九
黑髮山……二一〇
上熊谷溫泉……二二一
大佐山……二二一
丹治部……二二一
方谷園……二二一
萬歲井……二二二
町村名及戸數人口……二二二

第四編　美作國

眞庭郡

久世町……二二五
瑞泉寺……二二六
落合町……二二六
木山神社……二二六
勝山町……二二七
勝山城址……二二八
明德寺……二二八
梶原景時の墓……二二八
神庭の滝……二二八
眞賀溫泉……二二九
湯原溫泉……二二九
神代寶……二三〇
美甘……二三〇
新庄村……二三一
四十曲峠……二三一
篠向城址……二三一
月田城址……二三一
飯山城址……二三二
町村名及戶數人口……二三二

苫田郡

津山町……二三四
鶴山公園……二三五
楽園……二三六
德守神社……二三七
津山の佛寺……二三七
總社神社……二三八

國府遺址……二三九
中山神社……二三九
圓通寺……二四〇
大町瀧及大瀧……二四一
泉ヶ山……二四一
奥津溫泉……二四一
岩井瀧……二四二
二宮松原……二四二
縣立農事講習所……二四二
高野神社……二四三
院の庄作樂神社……二四三
金剛頂寺……二四五
町村名及戶數人口……二四五

勝田郡

國分寺……二四八
菩提寺……二四八
菩提寺城址……二四九
那岐山……二四九
廣戶瀧……二四九
日本野……二五〇
勝間田町……二五〇
三星城址……二五〇
湯郷溫泉……二五〇
鷲山城址……二五一
町村名及戶數人口……二五二

英田郡

倉敷町……二五四
倉敷山城址……二五四
天石門別神社……二五四
早瀧……二五五

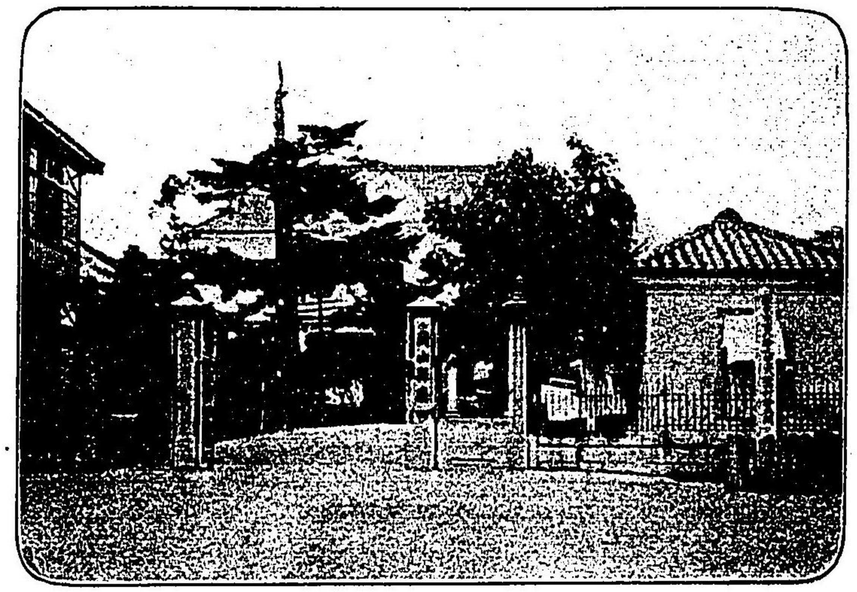
杉坂峠・・・・・・・・・・・・二五五
大聖寺・・・・・・・・・・・・二五五
後山・・・・・・・・・・・・二五六

久米郡

福渡村・・・・・・・・・・・・二五八
弓削村・・・・・・・・・・・・二五九
天狗瀧・・・・・・・・・・・・二五九
佛教寺・・・・・・・・・・・・二五九
泰山寺・・・・・・・・・・・・二六〇
本山寺・・・・・・・・・・・・二六〇
誕生寺・・・・・・・・・・・・二六一
源空・・・・・・・・・・・・二六三
龜甲・・・・・・・・・・・・二六四
荒神山城址・・・・・・・・・・・・二六四
馬形山・・・・・・・・・・・・二五六
町村名及戸數人口・・・・・・・・・・・・二五七
二上山・・・・・・・・・・・・二六五
佐良山・・・・・・・・・・・・二六五
貫布禰神社・・・・・・・・・・・・二六七
坪井村・・・・・・・・・・・・二六七
岩屋城址・・・・・・・・・・・・二六七
八幡神社・・・・・・・・・・・・二六八
金龍山江原寺・・・・・・・・・・・・二六八
錦織・・・・・・・・・・・・二六八
町村名及戸數人口・・・・・・・・・・・・二六九

附錄

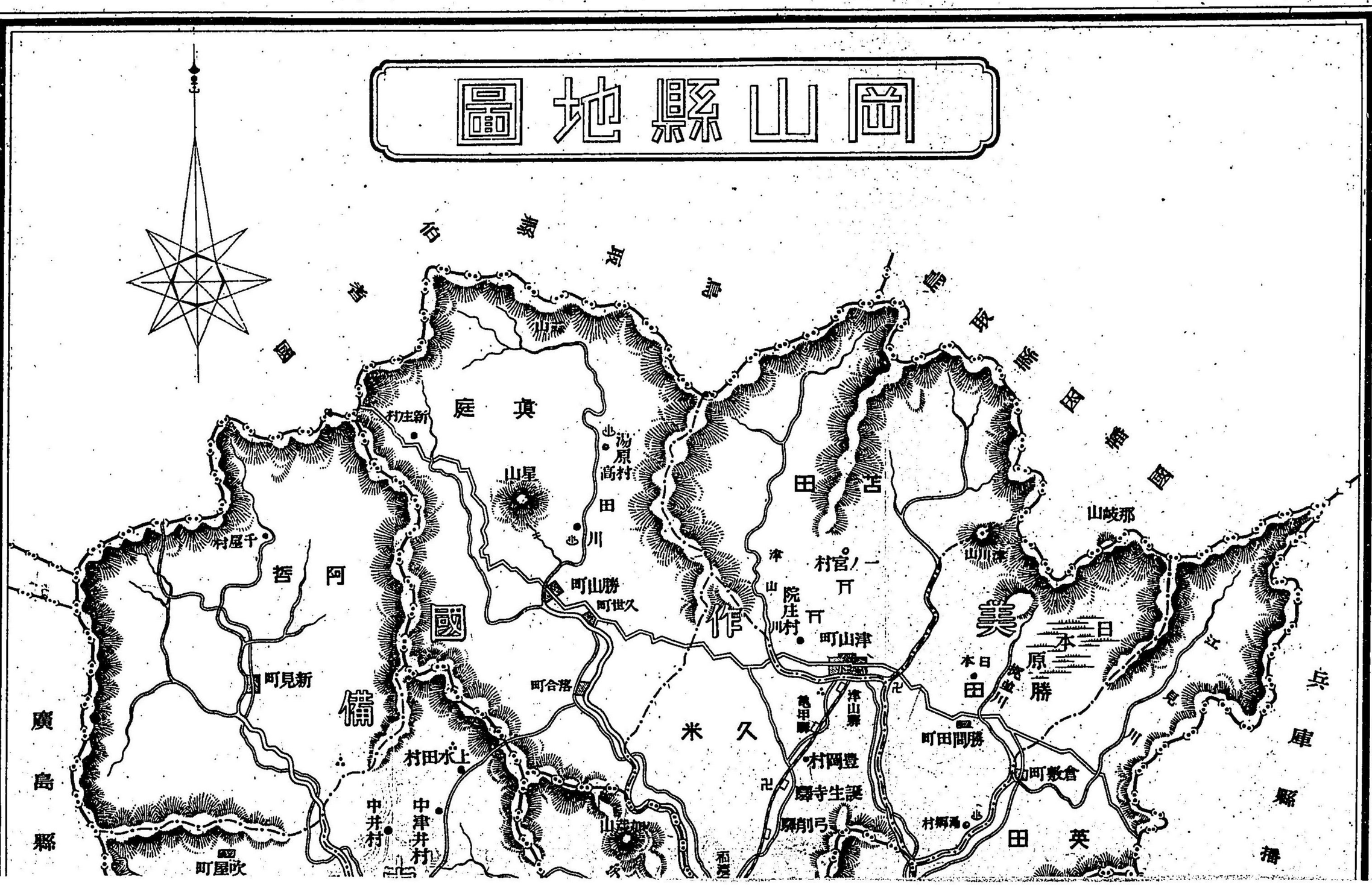
特別保護建造物一覽表
國寶一覽表
小學校各科教材連絡表

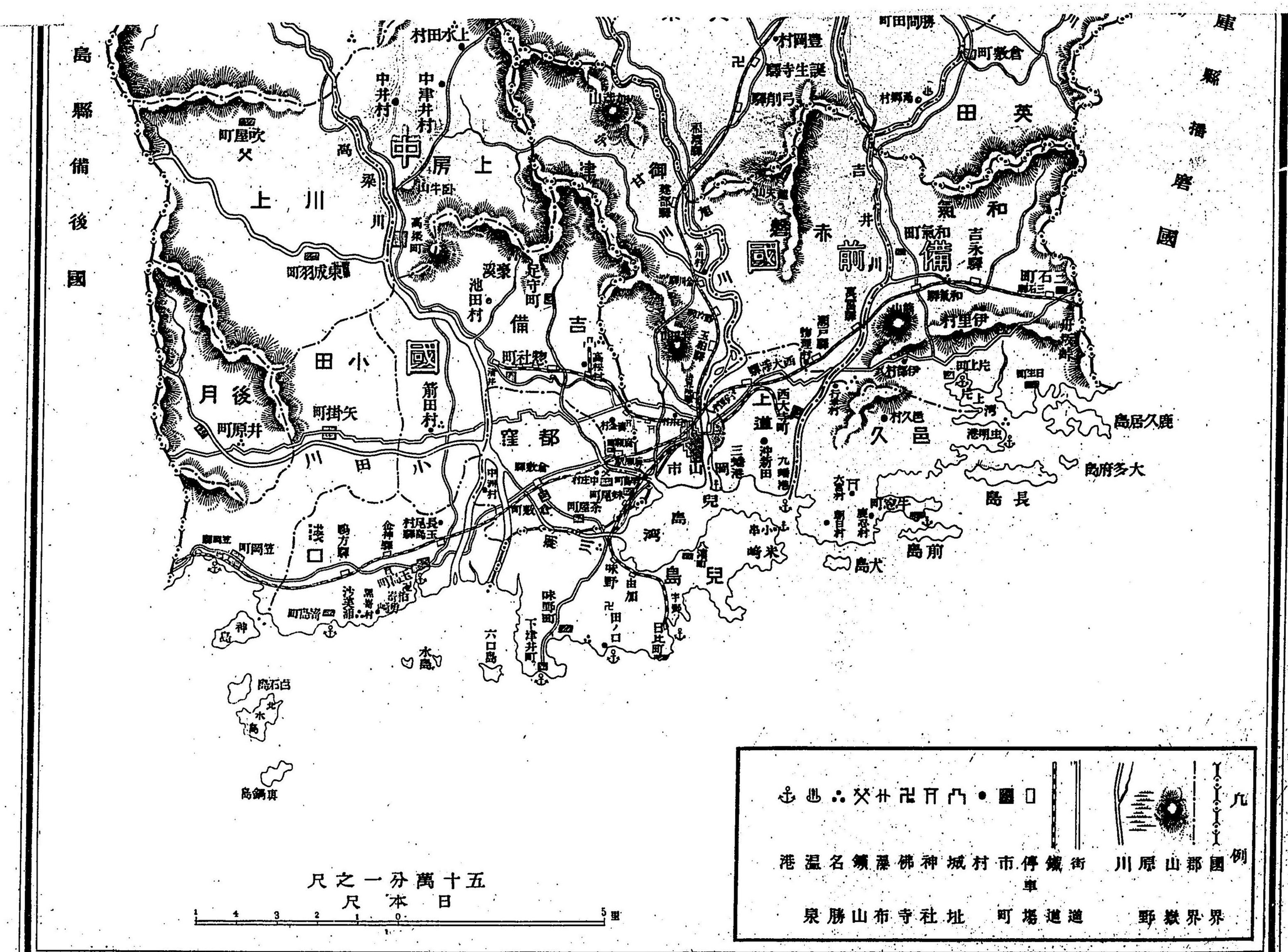


岡山縣廳

岡山後樂園

岡山縣地圖


因幡國
伯耆國
鳥取縣
兵庫縣
廣島縣
備中國
美作國
真庭郡
苫田郡
阿哲郡
久米郡
英田郡
勝田郡
新庄村
湯原村
高田村
星山
千屋村
新見町
吹屋町
水上村
中井村
中津井村
山茂加
和意谷
町合落
町山勝
久世町
院庄村
津山
一宮村
町山津
亀甲駅
津山駅
豊岡村
誕生寺駅
弓削駅
町田間勝
日本田
日本原
倉敷町
村柳瀬
那岐山
山川津
吉井川
旭川


備後國
播磨國
上川
小田川
後月
中房
上津
吉備
都窪
御津
赤磐
備前
和氣
英田
上道
邑久
兒島
長島
大多府島
鹿久居島
前島
犬島
淺口
三野
味野
日比
六口島
水島
神島
真鍋島
北水島
五十萬分一之尺
日本尺
凡例
國郡山原川
界界嶽野
街鐵停市村城神佛瀑嶺名温港
道道場町 址社寺布山勝泉

新編 岡山縣地誌提要

第一編 總說

沿革

太古。吉備の名は、我が國開闢の初め既に國史に見ゆ、卽ち伊弉諾・伊弉冊の二尊が、彼の大八洲國生み給へる後、吉備の兒島を生ませ給ふと傳ふ。されば、其開拓の極めて遼遠なるを知るべし。抑々、此吉備の地たる、南は波靜かなる瀨戸內海に臨み、北は中國山系障屏をなし以て能く北風を防ぐが故に、氣候は常に春の暖かさを感じ、加ふるに土地肥え、水陸の交通さへ便り宜かりしかば、自ら蒼生の移住に、好都合なりしなり。而して邑久郡豐原村・上道郡浮田村沼・都窪郡菅生村子位莊・同

郡中洲村酒津等、内海に瀕せる各地方の貝塚より少なからぬ石器土器を發見し、又石斧・石鏃等石器時代の遺物の發見頗る多きを見ても既に此時代住民の多かりしを想ふに難からざるなり。又各地に殘れる傳說等により韓土渡來の民族・出雲派・大和派の民族が互に其勢力を扶殖するに努め、時に衝突あり、其波瀾は惹て各種族勢力の消長に關係せる所大なりしが如く察せらる。

神武天皇東征。　皇祖神武天皇、東征の御道すがら、乙卯歲三月、此國に入り行宮を高島に造られ、駐まり、給ふこと三年（或は八年と云ふ）舟揖を修め兵食を蓄へ、浪速に向はせ給へり。（高島宮址は、備中小田郡高島・備前上道郡龍口山の南・仝兒島郡高島或は備後沼隈郡熊山の南等の諸說あり て一定せず。）

吉備津彥命。　其後崇神天皇の御代、四方不逞の徒蜂出するに及び、四道

將軍の派遣を見るに至りぬ。此時孝靈天皇第四の皇子吉備津彥命、弟稚武吉備津彥命と共に此地方に見え、或は溫羅と云へる海賊を征討し、或は蟹巢帥を征伐して良民を安堵せしめられぬ。

穴海の賊。　景行天皇の御代、今の備前邑久・上道・御津三郡の南部より備中都窪・淺口等の南部にかけ、一帶の海にして穴海と稱せしが、此惡賊强猛なりしを以て、二十八年日本武尊これを討平し給へり。

國造・縣主。　其後、此地方は久しく平和となり、其間に漸次行政區劃を定むることゝなり、應神天皇の朝、

大伯國（今の邑久郡地方）　上道國（今の上道郡地方）
三野國（今の御津郡地方）　加夜國（今の吉備郡地方）
下道國（今の吉備郡地方）

の五國に國造あり、猶此前後に

石无縣（今の赤磐和氣地方）　川島縣（今の淺口郡地方）
苑縣（今の吉備郡地方）　服部縣（今の吉備郡地方）

等の縣に縣主ありて國を治められき。

吉備の分國。飯豐青皇女攝政の時、尾張覺連に詔して、黃微を前・中・後に分たしめ給ひし由、記せるものさへあれど、天武天皇十二年、諸國の境域を定められし時、吉備を前・中・後の三國に分たれしものならん、然も舊慣の未だ俄かに改め得ざりしものにや、文武四年直廣參上野朝臣小足、吉備の惣領となり、又天平寶字十八年下道朝臣斐太都、吉備國造となる等聞えたり。其後元明天皇和銅六年、備前六郡を割き、始めて美作國を置くに至り、往古の吉備は分れて備前・中・後及び美作の四國となれり。

國府。孝德天皇大化新政より、國に國司、郡に郡司を置き、大に地方政治の發達を見るに至りて、此國々にも亦國司あり、此くて源頼朝鎌倉に幕府を開くに及び、諸國に守護、莊園に地頭を置くことゝなり、國司は猶存せりと雖も、其實權彼に移りて、又昔日の觀なきに至れり。當時、國司の政務を掌る官廳を、國府又は國衙と云ひ、國內便利の地を擇んでこれを置けり。

備前國　上道郡高島村大字國府市場
備中國　吉備郡總社町大字總社
美作國　苫田郡西苫田村大字總社

軍團。王朝時代、諸國に配置したる軍營にして、本縣には備前に御野軍團、備中に賀夜軍團、美作に苫東軍團あり、當時備前は八郡にして二團、備中は九郡にして二團あり、美作は七郡にして一團ありしと云ふ。

備前守平忠盛。瀨戸內海は東西交通の要路に當り、海客の往來繁かり

しかば、從て古より海賊の横行甚しかりき。彼の溫羅と云ひ、穴海の賊と云ひ、承平・天慶の頃、藤原純友の餘黨、又は藤原文元等常に人民を鹵掠せり。此くて藤氏、權を擅にし、地方漸く亂るゝに及びては、海賊の跋扈愈激甚を極めしかば、大治四年備前守忠盛、朝命を奉じて此を追捕し、遂に平氏權を得る一因を與ふるに至れり。

源平の世。　平氏權勢を扶殖するや、難波經遠・同經房を備前、江見守信・豐田權頭を美作、妹尾兼康を備中の守護とし此等の國を治めしむ、又一方には平氏に抗せし藤原成親、關白藤原基房等名臣の流謫せらるゝありき、然るに平氏の榮華も久しからず、源氏の蜂起により一族西走の悲運に向ひし時、前には備中水島灘に衝突し、後には、藤戸渡に爭ひ、一度びは平軍の利に歸せしも、大勢は既に定まりて又如何ともすべからず、やがて頼朝の天下となれり。

此時文治の初、土肥實平、梶原景時をして三國の守護たらしめたり、然るに景時誅せられて、和田義盛之に代り、承久の亂には、後鳥羽上皇の皇子頼仁親王、備前兒島に流謫せられ給へり。

足利時代。　北條氏、源氏に代りて天下の實權を握り、漸く政に倦きて元弘の亂を生ぜし時、兒島高德備前に起り、車駕を舟坂峠に迎へ奉らんとして成らず、更に院庄に至り、櫻樹を削り赤心を墨にて頼はしたるは著しき事なりとす、かくて建武の大業成りしも、幾もなくして天下再び亂れ初め、遂に尊氏の野心を滿すに充分なりき。

足利氏の時に至り、備前・美作は赤松氏の領となり、(則祐より滿祐に至る三代)備中は高師秀の領となれり、然るに正平年間に至り、山名時氏出でゝ赤松氏の手より美作を取り、(其子氏清に至り元中八年滅ぶ)秋庭氏興りて高氏を逐ひ備中を領し、而して應仁中備前は赤松政則の

臣、浦上則宗の所有に歸せり。

三國爭亂の時代。かくて、文明の初より三國大に亂れて爭亂絶えず。備前は浦上、松田二氏の所領となり、美作は浦上・後藤氏の領地となりしが、天正の初浦上村宗の臣、宇喜多直家勃興して主家並に松田氏(元堅)を滅し、尙進んで後藤勝基をも敗り、遂に備前・美作を略せんとせり。當時恰も出雲の尼子氏、美作の北半を取り、安藝の毛利氏、備中を取り、三雄鼎立の貌ありき。然るに尼子氏滅ぶや、毛利氏は遂に美作をも併せ、以て宇喜多氏と爭ふに至れり。

宇喜多氏。此の如く、宇喜多氏と毛利氏と互に備・作の境場を爭ひて、攻戰殆ど止む時なかりしが、宇喜多氏早く欵を織田氏に通じ、其の救を請へり。されば秀吉の出征となり、兵を合せて連りに諸城を拔き、遂に備中高松城を包圍し、水攻の計を用ゐて繼に城主清水宗治を自盡せ

しめたり、然るに此時早く毛利氏・秀吉と和し、備中高梁川を以て境と定め、三國の地は悉く宇喜多氏の占領地となる。其後關原の役起るや、宇喜多秀家西軍の元帥となり、兵敗れて出亡し、後八丈島に謫死し、小早川秀秋之に代れり。

德川時代。小早川秀秋は關原の役東軍に內應せし功により、備前・美作を賜はり、岡山城にありしも嗣なくして國除せられ、池田輝政子忠繼備前に(忠繼其弟忠雄に傳へ、寛永九年子光仲の時因幡に徙り、其從兄光政代る)森忠政美作に封せられ、而して備中には關・木下・板倉・蒔田・伊東・山崎氏等各地に分封せらる。而して元祿中森氏嗣なくして國除せらるゝや、松平・三浦・松平三氏美作を三分するに至り、維新を迎ふる事となれり。

藩制一覽表

國名	藩名	治所	石高	始封時	始封藩主	累代藩主	所領
備前	岡山	岡山市	三十一萬五千二百石	寛永九年	池田光政	綱政、繼政、宗政、治政、齊政、齊敏、慮政、茂政、章政	岡山、赤磐、和氣、邑久、上道、兒島、及御津、都窪、淺口、吉備四郡ノ内
備中 鴨方	淺口郡鴨方村	二万五千石	寛文十二年	仝	池田政言	政倚、政方、政香、政直、政養、政共、政善、政詮	都窪、淺口、小田、三郡ノ内
生坂	都窪郡菅生村	一万五千石	仝	池田輝録	政晴、政員、政弼、政泰、政範、政和、政禮	都窪郡ノ内
足守	吉備郡足守町	二萬五千石	慶長五年	木下家定	利房、利當、利貞、公定、利潔、利忠、利彪、利徽、利德、利愛、利恭	吉備郡ノ内
庭瀬	仝郡庭瀬町	二万石	元禄十二年	板倉重長	昌信、勝興、勝志、勝喜、勝氏、勝資、勝貞、勝成、勝全、勝弘	都窪、小田、吉備、三郡ノ内
新見	阿哲郡新見町	一万八千石	元禄十年	關長治	長廣、政富、政辰、長誠、長輝、成煥、長道、長克、博直	淺口、小田、上房、阿哲四郡ノ内
成羽	川上郡成羽町	一万二千七百四十六石	萬治元年	山崎豐治	……治祗	淺口、川上二郡ノ内
岡田	吉備郡岡田村	一万三百四十三石	元和元年	伊東長次	長昌、長治、長貞、長救、長丘、長詮、長寛、長裕、長辭	吉備郡ノ内
松山	上房郡高梁町	五万石	延享元年	板倉勝澄	勝武、勝從、勝政、勝喬、勝職、勝靜、勝弼	淺口、吉備、上房、川上、阿哲五郡ノ内
淺尾	吉備郡總社町	一万石	慶長年中	蒔田廣定	定正、定行、定矩、定央、定安、定靜、定祥、定邦、定府、廣運、廣孝	都窪、淺口、吉備、三郡ノ内
津山	苫田郡津山町	十万石	元禄十一年	松平宣富	淺五郎、長熙、長孝、康哉、康乂、齊孝、齊民、慶倫	
鶴田	久米郡倭文西村	六万石餘	慶應三年	松平武聰	武脩	勝田、英田、久米、三郡ノ内
眞島	眞庭郡勝山町	二万三千石	明和元年	三浦明次	矩次、前次、毗次、誠次、峻次、義次、朗次、弘次、顯次	眞庭郡ノ内

美作

廢藩置縣。明治二年に至り、諸侯が其封土を奉還するに及び、十三藩を置き、其藩主は藩知事となりて尚其舊領地の政治を掌りしが、明治四年七月十四日列藩を廢して悉く縣となし、同十一月十五日分合を行ひ、岡山・深津（五年六月二日小田縣と改む）北條の三縣となし、更に八年十二月十五日小田縣を、九年四月十八日更に北條縣を岡山縣に合併し、三國初めて一縣となるに至り、以て今日に及べり。

岡山縣郡市廢合一覽表

郡縣存置時代ノ郡名	變遷	現今郡市名
御野郡	岡山市	岡山市
津高郡	御野郡 津高郡	御津郡
赤坂郡	赤坂郡 磐梨郡	赤磐郡
藤原郡	藤原郡 藤原郡—藤野郡—和氣郡	和氣郡
邑久郡	邑久郡	邑久郡
上道郡	上東郡 上道郡—上道郡	上道郡
兒島郡		兒島郡
英多郡	英田郡 吉野郡	英田郡

勝田郡	勝南郡—勝田南郡—勝南郡 勝北郡—勝田北郡—勝北郡	勝田郡
大庭郡 眞島郡		眞庭郡
苫田郡	苫東郡 東南條郡—苫東郡—東南條郡 東北條郡—苫北郡—東北條郡 苫西郡 西北條郡—苫西郡—西北條郡 西西條郡—苫西郡—西西條郡	苫田郡
久米郡	久米南條郡—久米南郡—久米南條郡 久米北條郡—久米北郡—久米北條郡	久米郡
都宇郡 窪屋郡		都窪郡
下道郡	川上郡 下道郡	川上郡
賀陽郡	賀陽郡 上房郡	吉備郡
英賀郡	阿賀郡	上房郡
哲多郡	哲多郡	阿哲郡

淺口郡	淺口郡
小田郡	小田郡
後月郡	後月郡

位置

岡山縣は、中國地方の東南、山陽道の中央に位し、東は兵庫縣の播磨に境し、西は廣島縣の備後に連り、北は鳥取縣の因幡と伯耆とに隣り、南は瀬戸内海を隔てゝ香川縣の讃岐に相對す、而して縣の東西は東經百三十四度二十四分に起り、全百三十三度十六分に至り、南北は北緯三十四度二十五分より全三十五度二十分に及ぶ。

國郡市面積及廣袤表

國郡市	面積	廣袤 東西	廣袤 南北
全管	四五四、九二方里	二七、〇一里丁	二六、〇四里丁
備前國	一〇八、七五	一四、一七	一九、二六
岡山市	〇、六一	一、〇一	一、〇八
御津郡	二五、九三	六、一〇	九、三三
赤磐郡	二一、三四	五、二一	六、二五
和氣郡	二四、二二	六、一四	六、三二
邑久郡	一一、二四	四、三三	四、〇六
上道郡	八、一六	三、三一	二、二五
兒島郡	一七、二五	七、〇五	五、一五
備中國	一七一、二二	一四、二二	二〇、二三
都窪郡	八、九〇	四、〇四	三、一八
淺口郡	一一、八〇	五、〇八	四、二〇
小田郡	一六、五〇	五、〇九	六、三五
後月郡	九、九五	三、三四	五、一二

吉備郡	二五、三四	六、三二	七、〇二
上房郡	一九、八四	五、一一	七、二九
川上郡	二七、三二	七、一一	五、三五
阿哲郡	五一、五七	八、〇八	九、一八
美作國			
眞庭郡	一七四、九五	二一、〇二	一三、三二
苫田郡	五三、三七	七、三二	一一、一一
勝田郡	四七、〇六	九、〇八	八、一八
英田郡	二五、六五	六、一三	八、〇七
久米郡	二三、四六	七、〇九	一〇、一七
	二五、四一	六、二四	六、三二

地勢

北部は、總て高地にして、殊に伯耆・因幡の國境は、山陰・山陽兩道の脊骨を爲せる中國山脈、蜿蜒して障屏の形狀をなし、其支脈は縣內至る處に起伏連互し、南部に至るに隨ひ土地漸く低平となる、然も峯巒多く海に迫り、河岸・沿海處々に平野を有するに過ぎず。而して山嶽の著大なるは稀なりと雖も、美作には後山（英田郡四四三七尺）、花知山（苫田郡四一一七尺）、那岐山（勝田郡四〇九三尺）、毛無山（眞庭郡四〇二一尺）等あり。

此くの如く、北部に最高の山脈あるを以て、河流は概ね源を北方山脈の間に發し、南流して瀨戸內海に注ぐ。旭川・高梁川・吉井川の三大流の外に、足守川・砂川・笹瀨川・千町川等の小流あり、何れも舟楫或は灌漑の利便可なれども、時々水勢激昂して堤防を破壞し、田野を害するを缺點とす。

旭川は眞庭郡川上村に發し、東行南折し、勝山町にて新庄川、落合町にて備中川と相會し、漸次東南に流れて備前に入り、御津郡金川村に於て宇甘川と一帶となり、蜿蜒南流し、岡山市を貫き兒島灣に注ぐ。全長凡卅七里十五町にして、河口より勝山町に至る廿里の間舟楫を通ずべし。

高梁川は源を阿哲郡千屋村に發し、小坂部・成羽・小田の諸川を合せ、南

流直下、都窪郡清音村に至り、分れて二派となり海に入る。全長二十八里にして河口より阿哲郡上市村に至る十九里の間又舟楫を通ずべく、備中中部主要の交通路たり。

吉井川は源を苫田郡上齋原村に發し、曲折迂回、東南に向ひ津山の南を遶り、漸く南に環流して備前に入り、尙南下して兒島灣に注ぐ、全長凡三十四里二十六町、苫田郡久田村に至る、二十三里餘舟楫の利を有す。

鑛泉

北部に火山の脈走れるを以て、此地方は自ら鑛泉に富み、眞庭・苫田・勝田諸郡特に數多し、而して主なるを亞爾加里泉となし、鹽類泉之に次ぐ、故に其主治も殆んど一定し、僂麻質斯・胃腸病・皮膚病等に効あり、夏季來浴者漸次增加すと云ふ。今左に其重なるものを擧ぐ。

泉名	所在地	泉質	溫度	主治
八幡溫泉	御津郡上建部村	單純泉	攝氏二八度	皮膚病、僂麻質斯、子宮病（福渡驛より南三町餘）
柏谷冷泉	仝　野谷村	炭酸泉	—	胃腸衰弱、氣管支炎
三石冷泉	和氣郡三石村	鐵泉	—	强壯ノ收斂防腐
池田鑛泉	淺口郡富田村	鹽類泉	仝　一八	皮膚病、僂麻質斯
高末冷泉	小田郡美川村	亞爾加里泉	—	胃腸衰弱、氣管支炎
四山內冷泉	吉備郡福谷村	仝	—	仝
湯原溫泉	眞庭郡湯原村	鹽類泉	華氏一〇六	皮膚病、僂麻質斯、神經諸病
眞賀溫泉	仝	亞爾加里泉	仝　一〇四	胃腸衰弱、僂麻質性諸病
郷錄溫泉	仝	鹽類泉	仝　九四	仝
禾津溫泉	仝	仝	仝　八八	仝
次樽溫泉	仝	亞爾加里泉	仝　一〇〇	皮膚病、痔疾等
上熊谷溫泉	阿哲郡熊谷村	仝	—	胃腸衰弱、氣管支炎等
鍵溫泉	苫田郡奥津村	仝	仝　一〇七	僂麻質斯、諸病、胃腸衰弱等
奥津溫泉	仝	仝	仝　一〇九	仝

大釣温泉	苫田郡奥津村	炭酸泉	華氏 一〇二	僂麻質斯、諸病、胃腸衰弱等
湯郷温泉	勝田郡湯郷村	硫黄泉	仝 九六	皮膚病、僂麻質斯等
長養冷泉	仝 郡廣野村	亞爾加里泉	—	皮膚其他諸病
鹽谷冷泉	英田郡西粟倉村	仝	—	僂麻質斯、胃腸等

海岸

南部一帶の地は内海に面し、海岸線の延長、本地部七十一里十二町、島嶼部四十八里二十七町、合せて百二十里三町に及ぶ。隨て良港灣に乏しからず、兒島灣を最大なるものとし、良港には牛窓・三蟠・日比・下津井・宇野・田ノ口・小串・玉島・笠岡等あり。猶白砂青松の海岸には夏季浴場となるもの多し、今左に其重なるものを擧ぐ。

浴場名	所在地
牛窓海水浴場	邑久郡牛窓町
久々井海水浴場	邑久郡朝日村
寶傳海水浴場	同
犬島海水浴場	同
海濱	兒島郡琴浦村
浦田海濱院	同郡日比町
沙美海濱院	淺口郡黑崎村
洲ノ丸浴場	小田郡神島外村
正砂濱浴場	同
中村濱浴場	同
鴨野濱浴場	同
大道濱浴場	同
榎ノ濱浴場	同

氣候

本縣の位置は、凡て北溫帶中に在るを以て、到る所、氣候溫和に、四季皆愉快に生活する事を得べし、然れども、土地の高低一樣ならず、北に山岳屏立し、南に海水還るあれば、自ら溫度の差あり、卽ち南部沿海地方は概ね中和にして、極暑に於けるも苦熱を知らず、極寒亦凜冽ならず、而して北するに從ひ、漸次寒暑共に異り、因伯との境の如きは、極暑と雖も、猶朝夕は常に冷氣を覺え、炎熱は僅かに晝間の數時に過ぎず。又內海沿岸は、一般に北風を中國山脈にて遮り、南風を四國山脈にて止むるを以て雨量少く、北部に到るに從ひ、漸次多量となる。

生業

生業は農業を主とし、住民の七割を占め、北部山間の地方は伐木・炭燒・養蠶業に從事し、中央及南部は土壤、肥沃にして田園開け、米・麥・菡草・蔬菜・果樹を栽培するもの多し、耕地面積は、

田地	八万六千二百七十六町
畑地	三万八千八百六十九町四段
合計	十二万五千百四十五町四段

にして、縣下重要農產物の一箇年收入額は、實に三千數百萬圓に上り、農業の盛衰は、誠に縣の休戚に關す。是を以て普通農事に關しては農事試驗場を、養蠶に關しては農事講習所を、畜產に關しては種畜場を縣立として、規畫經營を怠らず、以て斯業の進步發達に努めつゝあり。

工業は住民の約一割を占め、工產品の總價額三千數百萬圓に達し、生產總額の四割强を占む。而して岡山市附近及備中南部に涉り、綿糸・織物・淸酒・花筵・生糸・麥稈眞田・足袋・醬油製造・製紙等に從事するもの多く、就中花

筵・麥稈眞田紐の製造は、蓋し本邦に於ける嚆矢にして、近來海外に輸出するもの頗る多額となれり。

又南部沿海の地方は、捕魚、採藻に從ふもの多く、鰕・鰆・鯛・鰌・鮪等を多しとす、灰介は其產額少なりと雖も、本縣の特產物にして兒島灣內に產す。猶朝鮮移住漁業及遠洋漁業を奬勵せる結果は、近年遠洋漁業を企つるもの續出し、既に朝鮮慶尙南道の彌勒島には、岡山村を經營し、現時三十五戶百十七人の移住者を見るに至れり。

此の外、山間には森林多く、年額四百萬圓以上の材木を伐採し、牛・馬等の畜產亦銅等の鑛產何れも百萬圓を下らず。

生產總價額　七千六百貳拾八萬圓　（明治四十二年度）

內產業統計略表

工產	參千五百貳拾萬圓	農產	參千百六拾八萬圓
林產	四百四萬圓	水產	參百拾萬圓
畜產	百拾五萬圓	鑛產	百拾壹萬圓

百萬圓以上の重要生產物

米	百六十三萬石（約壹千九百萬圓）	綿糸	五十三萬貫（約壹千百萬圓）
麥	七十四萬石（約五百五拾萬圓）	織物	四百六拾四萬圓
清酒	四百四拾萬圓	花筵	參百拾五萬圓
麥稈眞田	參百拾萬圓	漁獲物	百七拾九萬圓
醬油	百五拾萬圓	生糸	約百拾萬圓
人造肥料	百萬圓		

物産

物産の主要なるものは、米・綿糸・麥・織物・清酒・花筵・麥稈經木眞田紐・醬油・生糸・人造肥料・鹽・銅・木材・紙・果實等にして特に著名なるものには、

備前、伊部燒・虫明燒・吉備團子・長船の刀劍・果實

備中、花筵・麥稈經木眞田・牛・疊表・撫川團扇・酒津燒

美作、高田硯・山中煙草・雲齋織・晒葛・初雪

等あり。而して縣外への重なる輸出品には、米・綿糸・綿布及同製品・生糸・銅・花筵等あり・練綿・米・絹布及同製品・石油・材木等を多く輸入せり。

交通

國道・縣道の重なるものは、山陽街道・山陰街道・四國街道(以上國道)倉吉街道・備中濱街道等にして、

山陽街道は、兵庫縣播磨國有年より來り、和氣郡に入り三石・片上・伊部・香登を經て、邑久郡の西北部長船を通過し、上道郡にては一日市・藤井を過ぎて岡山市に達し、御津郡なる三門・一の宮を經て、吉備郡に入り眞金を過ぎ、都窪郡を貫き、高梁川を渡りて再び吉備郡の西南部を越え、小田郡矢掛町を貫き、後月郡井原町を經て、廣島縣に達す、里程二十四里十二町餘あり。

山陰街道は、兵庫縣播磨國佐用より來り、英田郡土居・倉敷・勝田郡勝間田町を經、苫田郡津山町・二の宮・院庄等を貫き、久米郡坪井・眞庭郡久世・勝山・美甘・新庄を過ぎ、四十曲峠を越えて、鳥取縣に達す。里程二十二里二十九町餘あり。

四國街道は、岡山市より西南に赴き、御津郡の南部を貫き、都窪郡妹尾を經、兒島郡味野・下津井に至る。里程八里十四町餘あり。海上四里にして、

香川縣丸龜港に連絡する道路なり。

倉吉街道は、津山町より西北し、寺元・竹田・久田・西屋・齋原を經て人形山峠を越え伯耆國穴鴨に達す。

備中濱街道は、岡山市より備中の南部を過ぎ、備後に通ずるものにして、即ち吉備郡庭瀬・都窪郡撫川・倉敷を經て、淺口郡西阿知・玉島・小田郡笠岡を過ぎ、備後の大門驛に通ず。里程凡十四里あり。

鐵道、山陽本線、兩備を東西に貫通し、中國線は岡山市に起り、北は津山町に達し、西北は湛井に通ず、宇野線は、岡山市に起りて宇野港に達するものなり。

山陽本線は、神戸を起點とし、西の方、下ノ關に至る線路にして、本縣管內に在りては、東は兵庫縣より兩備の南部を過ぎ、西の方廣島縣に達す。其間五十七哩四十鎖餘にして、十三驛あり、驛名及び岡山驛よりの哩數及び三等賃錢左の如し。

上り

四大寺	四哩五	九錢
西大寺驛、四大寺町間輕便鐵道あり		
瀨戸	九、五	拾七錢
萬富	一二、四	貳拾貳錢
和氣	一七、七	參拾壹錢
吉永	二一、一	參拾六錢
三石	二五、四	四拾參錢

下り

庭瀨	四哩一	八錢
倉敷	一〇、〇	拾八錢
玉島	一五、七	貳拾七錢
金神	一九、六	參拾四錢
鴨方	二一、八	參拾七錢
笠岡	二七、二	四拾六錢

山陽支線宇野線は、岡山市に起り宇野港に達し、更に連絡船によりて、四國高松に通ずるもの、二十哩餘にして八驛あり、即ち左の如し。

鹿田	〇哩九	參錢
早島	七、三	拾參錢
味野	一一、二	貳拾錢
八濱	一六、五	貳拾九錢
妹尾	五哩一	拾錢
茶屋町	九、二	拾七錢
由加	一四、一	貳拾五錢
宇野	二〇、四	參拾五錢

中國鐵道線は、岡山市を起點とし、津山及湛井に至る私鐵にして、津山迄三十五哩二十鎖、十驛、湛井まで十三哩四十鎖、八驛あり、卽ち左の如し。

津山行

法界院	一哩、二	四錢	三門
玉柏	四、六	拾壹錢	一哩、二
野々口	一〇、三	貳拾貳錢	一ノ宮
金川	一二、二	貳拾六錢	稻荷
建部	一六、八	參拾五錢	輕便鐵道平山停留所
福渡	一八、八	參拾九錢	稻荷山
弓削	二五、二	五拾貳錢	足守
誕生寺	二七、〇	五拾五錢	服部
龜ノ甲	三〇、五	六拾貳錢	總社
津山	三五、三	七拾貳錢	湛井

湛井行

三門	一哩、二	四錢	法界院
一ノ宮	四、一	拾錢	玉柏
吉備津	五、三	拾貳錢	野々口
稻荷	六、九	拾五錢	金川
輕便鐵道平山停留所		拾八錢	建部
稻荷山		貳拾錢	福渡
足守	八、四	拾八錢	弓削
服部	一〇、三	貳拾貳錢	誕生寺
總社	一一、八	貳拾五錢	龜ノ甲
湛井	一三、五	貳拾八錢	津山

戶數人口

縣下三國の總戶數は、明治四十三年十二月三十一日の現在數、二十四万二千六百十六戶にして、二十箇年以前に比すれば、約一万四千戶、十五箇年以前にして、二十箇年前に比すれば、約二万二千戶を增加せり。又人口は、約百二十三万六千人にして、二十箇年前に比し約十五万五千人、十五箇年以前よりも十二万四千人を增加せり。猶各郡市の總數左の如し。

國郡市名	戶數	人口 男	人口 女	人口 計
全管	二四二、六一四戶	六二九、九一一人	六〇六、八二四人	一、二三六、七三五人
備前國	八八、八八五	二二九、五九一	二一四、六七〇	四四四、二六一
岡山市	一六、八三六	五〇、一四三	四四、三二一	九四、四六四
御津郡	一三、五二八	三二、一九八	三二、〇〇一	六四、一九九
赤磐郡	九、六四〇	二四、七三七	二三、一〇一	四七、八三八

和氣郡	九、〇六六	二二、七六〇	二二、二六一	四五、〇二一
邑久郡	一〇、四七一	二六、七三〇	二四、三五四	五一、〇八四
上道郡	九、八一四	二四、五九五	二二、九六九	四七、五六四
兒島郡	一九、五三〇	四八、四二八	四五、六六三	九四、〇九一
備中國	一〇〇、二六九	二五七、四九八	二五五、二四五	五一二、七四三
都窪郡	一六、〇三六	三九、二八四	三八、九二七	七八、二一一
淺口郡	一九、四六二	五〇、五〇三	四八、五四七	九九、〇五〇
小田郡	一六、一八四	四一、七五二	四一、八六一	八三、六一三
後月郡	七、一八一	一九、一九四	一八、九四八	三八、一四二
吉備郡	一四、八八三	三五、八〇九	三六、〇八五	七一、八九四
上房郡	八、五七三	二一、九〇四	二一、六一〇	四三、五一四
川上郡	八、九一三	二五、一八二	二五、四〇二	五〇、五八四
阿哲郡	九、〇三七	二三、八七〇	二三、八六五	四七、七三五
美作國	五三、四六〇	一四二、八二二	一三六、九〇九	二七九、七三一
眞庭郡	一一、六三六	三〇、〇七七	二九、〇六五	五九、一四二

苫田郡	一四、二五七	三六、三六九	三五、二六〇	七一、六二九
勝田郡	一〇、〇五四	二八、四九八	二七、二七三	五五、七七一
英田郡	七、八八〇	二二、〇二一	二〇、七六一	四二、七八二
久米郡	九、六三三	二五、八五七	二四、五五〇	五〇、四〇七

自治

明治二十二年六月市制町村制實施の當時、區町村を合併して一市・三十一郡・三町・四百五十一村を置きしが、翌二十三年府縣制郡制の發布あり、三十三年郡の廢合を行ひ、十九郡となり、村にありても町と改稱したるもの三十一町、縣界の變更及び廢置分合の結果五十四村を減少し、現今は一市・十九郡・三十四町・三百六十六村を有せり。而して此内地方改良效績者として、内務大臣より賞せられたる町村には、川上郡宇治村・吉備郡

岩田村あり、個人としては久米郡福岡村柳彌助氏あり。其賞狀に曰く、

協同緝睦、相率ゐて克く公共の事に竭し、整理經營共に見るべきもの尠からず、今後、尚一層の奮勵を以て、互に相勁力し、益々其實績を擧ぐべき旨を以て、明治四十三年二月二十五日、內務大臣より金八百圓を授與せらる。

川上郡宇治村　吉備郡岩田村

前同文、金五百圓を授與せらる。

久米郡福岡村　柳彌助

平素克く其力を共同の事に效し、地方改良の上に盡くすこと少からず、今後、尚一層の勉勵を望む旨を以て、明治四十三年二月二十五日、內務大臣より金貳百圓を授與せらる。

教育

寛永九年、池田光政、封を備前に受くるや、自ら費舍を創設し、鋭意教育の普及を奬勵したる結果は、藩費家塾到る處に興り、中にも岡山藩費（岡山市西中山下、今女子師範學校となる）、閑谷黌（和氣郡伊里村、今閑谷中學校）、興讓館（後月郡西江原村、今興讓館中學校）は著しかりき。かくて知名の學者を多く輩出するに至れり。明治五年、學制の頒布せらるゝや、多數の小學校を新設し、教育事業は漸次發達進歩の域に進み、現今第六高等學校、岡山醫學專門學校を初とし、師範學校二、中學校（公立四、私立六）、高等女學校（公立四、私立四）、實業學校（甲種六、乙種二）、各種學校二百〇五、小學校五百六十六、幼稚園二十二を有す。

今其進歩の概況を見るに左の如し

種別	明治十八年	明治三十二年	明治四十二年
就學兒童數	一一二、一六三人	九七、〇四一人	一六九、六〇四人
就學歩合	百人ニ付 六六人	七六人八五	九九人七八
中等學校數	二	九	二八

元標より各郡市役所への里程表

岡山市役所（岡山市東中山下）五町　淺口郡役所（玉島町）七里十九町
御津郡役所（石井村字巖井）一里　小田郡役所（笠岡町）十二里五町
赤磐郡役所（物理村字瀬戸）四里三町　後月郡役所（井原町）十二里二十八町
和氣郡役所（和氣町）七里二十二町　吉備郡役所（總社町）五里四町
邑久郡役所（邑久村字尾張）四里十六町　上房郡役所（高梁町）十一里十九町
上道郡役所（西大寺町）二里三十三町　川上郡役所（成羽町）十二里十五町

兒島郡役所（味野町）七里四町　阿哲郡役所（新見町）二十里十五町
都窪郡役所（倉敷町）四里二十六町　眞庭郡役所（勝山町）十八里三十四町
勝田郡役所（勝間田町）十五里十八町　苫田郡役所（津山町）十五里二十六町
英田郡役所（倉敷町）十四里四町　久米郡役所（加美村）十三里二十町

（但し元標は岡山市橋本町京橋側にあり。）

第二編　備前國

岡山市

位置。岡山市は、岡山縣備前國の南部、御津・上道兩郡の間に在り、東西一里十三町五十二間、南北一里十八町七間、東經百三十三度五十四分、北緯三十四度四十分にあり。地勢、東北より南西に傾斜し、旭川、市の中央を貫通南下して旭東・旭西の二部を劃せり。

沿革。岡山の地たる、往古は、吉備内海中の一孤島にして、之を大島と稱し、繞らすに渺茫たる蒼海を以てし、一に吉備の穴海と唱へたりしが、時代の變遷に從ひ、海面も漸次流れ來る泥沙の堆積によりて、遂に大島原となり、三個の岡阜を遺す、之を岡山・石山・天神山と稱せり。岡山は又柴津（しはつ）岡山と云ひ、現在の岡山中學校の所在、舊本丸の地を稱し、石山

は元の西丸卽ち現在の內山下小學校の邊、天神山は現今の岡山神社、岡山縣廳附近の總稱なりき。

町名。岡山は、近世池田氏の居所なりしが、廢藩の後、岡山縣廳を置かれ、爾後明治二十二年、市制實施と共に、諸種の改善を加へ、明治三十八年水道事業を完成し、四十一年第十七師團設置せられ、又宇野線延長工事は、四十三年竣工して、宇野港は市の咽喉となり、四國との連絡を完成するに至り、商工業は益々發振を致し、內外人の往復彌繁劇を極め、今や益々隆盛に向はんとす、而して、電燈・瓦斯事業夙に成り、輕便鐵道西大寺に通じ、中國樞要の都會となれり。人口凡九万五千を有し、現今の町村九十七あり、下の如し。

弓ノ町　石關町　下出石町　中出石町　上出石町
上之町　中之町　下之町　東中山下　西中山下

榮町　紙屋町　川崎町　內山下　西大寺町
新西大寺町　橋本町　船着町　天瀨　廣瀨町
小畑町　一番町　二番町　三番町　四番町
五番町　六番町　七番町　八番町　難波町
瀧本町　下市町　富田町　岩田町　萬町
丸龜町　山崎町　柿屋町　野田屋町　桶屋町
上西川町　下西川町　野殿町　磨屋町　東田町
西田町　下田町　仁王町　高砂町　常盤町
濱田町　大雲寺町　大工町　尾上町　櫻町
七軒町　瓦町　片瀨町　久山町　上內田町
油町　平野町　紺屋町　兒島町　瀨尾町
小野田町　小原町　藤野町　高橋町　山科町

船頭町	二日市町	下内田町	新道 七日市町
旭町	大供	下石井	内田 岡
上石井	上伊福	南方	兵團
東中島町	西中島町	小橋町	花畑 門田屋敷
大黒町	下片上町	上片上町	古京町 森下町
網濱	國富	門田	

市街を通ぜる本街道は、旭東森下町より大黒町・小橋町に至り、小橋・中橋・京橋を渡り、橋本町・西大寺町より北折して榮町・下之町・中之町を經、上之町より西して又北し山崎町・丸龜町より更に西に曲り、岩田町・萬町に出づるものなり、而して京橋通・榮町通は市の繁華區をなせり。

教育。公・私立の學校甚だ多く、

公立には

第六高等學校	大字國富
岡山醫學專門學校	仝 内山下
岡山縣師範學校	仝 門田
岡山縣女子師範學校	仝 西中山下
縣立岡山中學校	仝 内山下
縣立商業學校	仝 内山下
縣立工業學校	仝 南方
縣立岡山高等女學校	仝 大供
市立岡山商業學校	仝 内山下

私立には

山陽高等女學校	大字門田
就實高等女學校	仝 弓ノ町

清心高等女學校　大字弓ノ町
岡山教員養成所　仝　廣瀬町
中學閑谷黌岡山分黌　仝　下西川
岡山盲唖學校　仝　一番町

等あり。

縣立戰捷紀念圖書館。縣廳前、元と亞公園の地にあり、日露戰役紀念事業として設立したるものにして、明治四十一年三月四日開館式を行へり。而して明治四十三年末の藏書、和漢書二万九千九百七十七冊、洋書二千八百三十七冊、合計三万二千八百十四冊を藏し、公衆一般の閲覽に供しつゝあり。

縣立病院。現今市内大字内山下にありと雖も、元は上道郡門田村に在り。其沿革を尋ぬるに、明治三年四月藩の事業として、醫學館及病院を

開設せしを初めとし、越えて、翌四年七月、更に一小病院を岡山中之町に設け、十二月普通學校を設置し、醫學館を醫學所と改め、同校の附屬とせり。然るに五年二月醫學所及大病院を一度廢しゝも、四月復興し、七月總てを合併して、病院と稱す。其後或は榮町に、或は弓之町に移りしが、二十四年七月現今の位置に新築せらるゝに至り、敷地約八千三百餘坪を有する大規模のものとなれり。

全科の治療を目的とし、職員六十人、病室一千二百餘坪、規模備はり、年々治療を受くる患者、二万人以上に及ぶと云ふ。

其他重なるものには、

名稱	所在地	治療目的	院長
岡山縣立中島病院	西中島町	花柳病	鈴木昌平
伊達小兒病院	西田町	小兒科	伊達久庸

野上小兒科醫院	西田町	小兒科	野上壽惠吉
村田產婦人科醫院	西中山下	產婦人科	村田龜太郎
守屋醫院	天瀨	眼科・內科	守屋立民
島村眼科醫院	東田町	眼科	藤原鉄太郎
坂田病院	上西川	外科	醫學博士 坂田快太郎
石本外科醫院	弓之町	外科	石本於義太
岡本醫院	天瀨	內科耳鼻咽喉科	岡本錦吉郎
赤澤內科醫院	東中山下	內科	赤澤乾一

官廳、役所

岡山縣廳	弓之町	岡山地方裁判所	弓之町
岡山區裁判所	弓之町	岡山警察署	弓之町
岡山監獄署	二日市町	岡山監獄弓之町出張所	弓之町

岡山稅務署	東中山下	岡山小林區署	西中山下
岡山郵便電信局	下之町	岡山縣病院	內山下
岡山市役所	東中山下	岡山縣測候所	內山下
岡山電話交換局	東中山下		

銀行會社。

岡山農工銀行	弓之町	二十二銀行	西大寺町
二十二貯蓄銀行	西中山下	山陽商業銀行	上石井
岡山貯蓄銀行	東中山下	鴻池銀行岡山支店	西中山下
加島銀行岡山支店	上之町	山口銀行岡山支店	上之町
鐘淵紡績株式會社岡山綿糸工場	花畑	岡山電燈株式會社	內山下
全備前綿糸工場	下石井	岡山精米合資會社	內山下
全岡山紐糸工場	門田	合名會社岡山製材所	石關町

山陽農具製作所	下石井	日本製銅硫酸肥料株式會社　船着町
中國鐵道株式會社	上伊福	坂本合資會社　東中山下
岡山電氣軌道株式會社	上之町	岡山印刷株式會社　西中山下
岡山瓦斯株式會社	網濱	山陽新報社　西中山下
中國民報社	東中山下	

舊藩學校址。寛永十八年、先づ學校を城南花畠に興しゝが、寛文六年岡山城内に移して假學館となし、諸士の子弟をして文武を講習せしむ。然るに同八年に至り、更に西中山下、圓乗院及諸士の家邸十七軒を他に移し、其地に學校を創建せり。境域南北百十間、東西は北邊にて四十間、南邊にて六十間、合せて七千五百坪、規模頗る宏大に、中に講堂(九間に十一間)、中堂(三間に六間)、食堂(六間に九間)、東舍・西舍・校門等を設けられぬ、而して東舍は五區となし各々三間に五間、名づけて、菊舍・蘭舍・梅舍・橘舍・梧舍と云ひ、重に武を講ずるの舍とし、西舍も亦五區となし、各三間に六間、之を杉舍・槐舍・柳舍・竹舍・松舍と呼び、文を學ぶ所とす、其他外部に役員の官邸あり。かくて翌九年七月、二十五日竣工するや、光政・播州・明石より熊澤蕃山を迎へて開校の式を行はしむ。これより引續き明治維新に至り、或は普通學校と稱して專ら洋學を講習し、或は遷芳館と改めしことありしも、明治九年三月其址に師範學校を置き、翌十年四月變則中學校をも併置せり、然るに其後其中學校を分離し、十八年更に岡山中學校と合併し、十九年後、中學校を今の地に移し、四十四年三月師範學校も亦移轉して、翌月より女子師範學校と成る。校舍・堂宇殆んど改築に係ると雖も、講堂・校門・泮池(はんち)等は猶舊觀を存せり。昔ながらの古色を帶べる此建物が如何に多大の感化を、子弟の精神上に及ぼすべきか。

岡山城。市の中央、旭川の西岸にあり、天主閣、今尚半天に聳ゆ、現今、縣立岡山中學校此所にあり。姫路の白きを以て鷺城と呼ぶに對し、城樓の外壁を蔽ふに燒板を以てし、其色黑きが故に烏城と稱す。

元、正平年中名和氏の一族上神高直なるもの南朝に仕へて茲に築城せしが後、天文・永祿の頃は宇喜多能家の臣金光與次郎宗高の居城となり、石山城と云ひしも、元龜元年、天神山城主浦上宗景の臣、宇喜多和泉守直家、宗高を殺して其城を收め、天正元年直家其臣岡平内に命じて大に土木を起し、從來の城壘を毀ちて西廓となし其東の地に城廓を造營し、池隍を鑿ち、國中の富豪を移し、西國街道を轉じ、工竣りて、上道郡沼城より此所に移り、勢漸く强大となれり、越えて五年、舊主浦上宗景を天神山に襲て、追落し、備前・備中・美作三國を領し、羽柴秀吉の西征するや、直家迎降し、其子秀家を之に托す。慶長三年、秀家・秀吉の指揮

に依り東の平地に本丸を築き又安土城に倣ひて、天主閣を增築し、旭川の水を城下に轉じ、京橋・中橋・小橋の三橋を架する等の大工事を起しゝが、同五年關ヶ原の合戰に、奮鬪して利あらず、薩摩に走り、後、八丈島に流竄せらる。然るに小早川秀秋、秀家の盟に叛き、東軍に應じ、其功を以て、備前・備中五十一万石を賜はり、同六年入城せしも、翌七年秀秋病んで卒し、繼嗣なきを以て國除かれ、翌八年姫路城主池田輝政の第二子忠繼の治所となりしが、元和三年因幡・伯耆に移封せらる、越えて寛永九年、輝政の嫡孫光政代りて入城し多少改築する所あり、爾後子孫相承けて明治維新に至る。

往昔城廓の一般を考ふるに、

本丸周圍五百六十間餘、壕西南に曲折して長二百六十二間、壕の幅南に於て十八間西に於て二十間、

二ノ丸内屋敷周廻七百五十六間ありて西、及び東南の二區に分る。

西の郭には周圍の壕なく此郭一千二百三十九坪、

東南の郭、壕の長二百八十間幅二十間、二千五百五十坪、

而して二ノ丸の總周廻七百三十一間、壕は六百十間あり、壕の幅、南門に於て十五間、西門の邊にて十六間、北にて四十八間あり。

三郭卽ち支封以下老臣及び諸士の邸宅、評定所、勘定所の有りし所は建坪一万三千二百坪あり、壕の長九百二十間、幅南に於て九間、北にて十三間。外郭の壕は長千三百三十一間、幅は北十五間、西十八間、南十四間ありしと云ふ。

岡山神社。　石關町にあり、縣社にして正殿に倭迹々日百襲姫命相殿に

吉備津彦命、倭迹々稚屋姫命を祭る。貞觀年中の創建にして、初め城山に鎮座せしを、天正元年直家城を再築するに當り、今の地に移せしなり。其後秀家、寶殿を造り、小早川秀秋拜殿を作り、慶長十八年十二月池田忠繼の時、新に建立せしも、復破損せしを以て元文五年五月繼政新に社殿を造營す、これ現今存するものなり。此宮初め岡山殿と云ひ後に阪下、酒下、酒折等の名稱を經て明治十六年今の名に改まりしものなりと云ふ。

後樂園。　旭川の東、古京町にあり、日本三公園の一と稱せらるゝものにして、園は貞享年中、池田綱政の時開きたるなり。其臣津田右源太永忠、工事を督す、周圍凡一里、四圍竹塢を以て繞らし、川を隔てゝ岡山城に對す、始め御茶屋敷と稱し、後ち後園と名けしを、明治四年二月後樂園と改め、尙池田氏の所有なりしが、明治十七年に至り、公園となしたる

なり。寔に、池田侯が一藩の力を盡したる程ありて、泉池の幽邃なる、樹木の蓊鬱たる、宛ら深山に入るの感あり。

今園内の模樣を略説せん。

鶴見橋。出石町より後樂園に抵る入口、旭川に架したる木橋にして長さ七十間餘、橋上の展望開豁にして夏の夕、暑を避け、涼を納るゝに宜し、橋を渡れば園の北門に達す。

岡山縣物産陳列場。園の入口にあり、縣下を初め各種の物産を陳列せり、參考として又一見の價値充分あり。

鶴鳴館。北門の右方にあり。建坪凡そ百四十坪、一の廣間となし、諸種の集會宴席に充つ、元縣會議場たりし所なり。本館の前に一株の古松あり愛す可し。

延養亭。園中第一の建物にして鶴鳴館の東南に隣り、古へ近國の

諸藩主及其使節等を延きて饗應せし所なりしが、明治の聖代となり、十八年車駕御巡幸の時、玉座を設けられ、四十三年十一月陸軍特別大演習が三備の地に於て行はれし時、再び陛下の玉座とせられたり。室は東南に面し、岡山城の天主閣を一眸に收め得るのみならず、坐して園内の勝を觀るべく、亭前には奇石維列して、苔滑かに草青く、其間白鶴の能く人に馴れて徜徉するありて風景殊に佳なり。

望湖閣。一に榮唱と云ひ、延養亭の西北に在り、建坪五十七坪、席の廣さ七十疊、柿葺の回廊によりて延養亭に通ず、閣の東南に花葉池あり、此畔の巨岩は高さ四間一尺、周回十三尋、松樹岩腹より生じ其奇狀觀るべし。

能舞臺。望湖閣の北に在り、寶永四年の建築にして柿葺とす建坪四十六坪餘、其三方に數十坪の餘地あり一面に小石を敷き楣端には

篠龍膽の紋を付す。岡山能樂保存會の發企にかゝる、春秋二季の能樂は今も此舞臺にて演ぜらる。

花葉。　榮唱の南なる庭園を云ふ。北に門あり、其外は直に西門に通じ、之を花葉口と稱ふ。門内は地勢高く秀で自ら丘阜をなし、喬樹千草、翁鬱枝を交へ四時日光を遮り綠苔地を蔽ひ、朝暮清風を貯へ、幽邃高遠にして深山幽谷の趣あり。一條の小徑により茂松庵に通ず。

茂松庵。　これ舊藩主の茶室にして廣さ二十二坪餘、三室に分つ、構造素樸にして雅致愛すべきものあり、其南に四天王堂、東に地藏堂あり。其側を二色岡と云ふ。

二色岡。　地勢高くして丘岡の形をなし池水其下を回る。岡には楓樹多く晩秋千枝萬朶悉く錦繡を裝へる樣、二月の色よりも紅なり、二色の名蓋しこれに基づける乎。池は闊さ東西五十七間、南北十二間、南

端に開門を設けて調節を計る、池水清きこと鏡の如し。

籠池軒。　二色岡より竹林に沿ひ東すれば右に一門あり南門と云ふ、其東に籠池軒あり。屋の廣さ二十一坪、室を分ちて二となし、別に厨を設く。園中の勝を望むには屈强の場所にして、背には竹林を隔てゝ旭川の流れを耳にし、前には周圍五十六間の籠池を見る、此水溢れては一條の小流となり唯心山の麓に注げり。

二段の藤。　籠池軒の東に二架の藤棚あり、西なるは白、東なるは紫にして、初夏滿開の頃は頗る美觀なり。其北に大蘇鐵數十株あり、又園中の一偉才たるに恥ぢず。

八ッ橋。　蘇鐵の東に池を穿ち燕子花を植ゑ且つ八個の小板橋を架す。蓋し三河の八ッ橋に擬せるものにして、又

唐衣きつゝ馴れにしつましあれば
はるばる來ぬる旅をしぞ思ふ

の古歌を忍ばしむ。

流店。八ッ橋の北にあり。建坪十二坪の小樓閣にして、其下には左右二條の小棧を架し、中央に一條の水道を疏通し其兩側に奇石を布置す。店の東に櫻林あり、其數二百餘、春風駘蕩の時に方りては香雲漠々として、園中の花此境を以て第一とす、更に東南に出れば百樹の梅林あり。

花交瀧。梅林の西、流店の南にあり、奇石錯落たる一道の飛泉なり、盛夏凌ぎ難き園中の一日も、一度歩を此所に移さば、凉風自ら爽快ならしむ。

岐蘇谷。溪に沿ふて一路縈回し、東西に通ずるものを岐蘇谷と稱し、東の盡くる所に泉池あり。

花交池。と云ふ。東西十二間、南北三十五間餘、瀑布と相對し、池中に小嶼あり、百石島と呼ぶ。

利休堂。梅林と竹林との間に門あり、東門と云ひ、門外を櫻の馬場と稱す。馬場より南折したる處に利休堂あり。屋を三室に分ち、第一室には元と利休の像を安置せしが今は他所に移せり。

千入の森。櫻林の北にあり楓樹數十株、天を掩ひ、秋霜一度至れば滿目の錦繡燦爛として畫も及ばず。其東北に新亭あり。

唯心山。園の中央に崛起する丘陵にして、山には樹木茂生し、其間に配石を布置し三條の小徑あり、山頂稍平坦にして遠望に富み、園内の諸景を一眸の中に收め得べし。傍らに一亭榭あり、唯心堂と云ふ、杜鵑花と躑躅とを以て山の大半を掩ひ、初夏の美言ふ可からず、又觀月

に可なり。

島の茶屋。唯心山の北に園中第一の大池、澤池あり、東西五十間、南北三十五間、中に三小島を有す。南に偏せる一島に橋を架し、島上に茶亭を設く、島の茶屋と云ふ、繞らすに稚松を以てし又怪石、白砂の中に立ちて、自ら海島の趣あり。又池中に二石標あり。一は表に「上道郡」裏に「境澤」一は表に「御野郡」裏に「みのしま」と刻せらる、蓋し元と二郡に跨り其境界を示せるものなりしなり。

井田。池の東に田頃あり、全く往昔の井田の遺制を用ひて之を造れり。

由賀神社。池の北にあり。拜殿・繪馬堂等を有す、元と、東京なる池田邸に在りしを移せしものにして、池田慶政の筆に成れる神號の扁額、拜殿の楣端に掲げらる。

慈眼堂。神社の傍に位置す。池に向ひて仁王門を建て、其側に梵鐘堂を築き、佛殿は巨石を疊みて礎とし、石階を設けて上下に便にす。

烏帽子岩。堂の側にあり、高さ二間餘、周圍九尋の巨石なり。

細響軒。池に沿ふて西せる所にあり、此邊亦園の風光を領するに適せり。

少林寺。操山の麓、國富に在り。庭園頗る閑雅にして風致に富む。境内に別に一宇あり、五百羅漢を安置す、長け各丈餘、古代の彫刻にして、其意匠製作の巧妙なる內外人士の等しく嘆賞する所なり。

偕樂園。一に東山公園と稱す、操山の西麓にあり、地位高操にして風光清佳、觀月特に宜し。園內に招魂社・三勳神社・玉井宮・東照宮あり。

招魂社。縣社に列し、戊辰・西南・日清・日露の戰ひに戰歿せし勇士の忠魂を祭り、毎歲五月六日盛大なる官祭を行ふ。社の傍に土倉一亭・高

田小洲・加藤次郎等の碑あり。

三勳神社。　招魂社の東方操山にあり。縣社に列し忠臣、和氣清麿・兒島高德・楠木正行を合祀す、境内頗る眺望に富めり。

玉井宮。　宮は元と、岡山の東南海上一里の地、米崎に在り、米崎の突出する所を光明ガ崎と云ふは、玉井宮の御燈光明かにして、常に海上を照し、船に乘るものゝ便とせしによるものにて、後、其神社を今の地に移すや、始めて其嶺上に御幣を建つ、因て社の後の山を幣立山と云ふなりと傳へらる。

東照宮。　寛文二十年光政、時の將軍に請ひて許され、江戸より勸請して建てたるものなり。

岡山孤兒院。　岡山孤兒院は、本部を岡山市門田屋敷百七十九番地に設け、支部を宮崎縣兒湯郡茶臼原及び大阪市南區日本橋筋五丁目に置

き、主として十二歳以下の孤兒を收容し、其父母に代りて之を敎養し、獨立自活の良民たらしむるを目的とせり。

抑々本院の創立は、明治二十年四月二十日、現院長石井十次氏が、岡山縣邑久郡上阿知村に於て、當時八歳の孤兒、前原定一を救濟せしに搬まり、漸次、其數を增加し、明治二十四年十月、濃尾大地震に際しては、九十三人を、三十七八年日露戰役中には、百六十人の兒童を收容す、而して、明治卅九年、東北の大饑饉に遭遇するや、其地方の孤兒八百二十三人を入院せしめ、一時は千二百人の大家族となれり。而して四十三年六月の調査によれば、

岡山孤兒院には、現在百五十四人あり、其中八十五名の學齡兒童は、院内の塾舍十戸に分住し、一家は十人を以て定員とし、之に一人の主婦あり、兒童は日々院内の小學校に通學し、國民敎育を授けらる。

殘餘の乳兒並に學齡未滿の者と、身體虛弱の者、六十九名は、縣下の農家に預け、毎月一回巡回して、其健否を視察す。

本院の常食は、米六分、麥四分にして、之に適宜副菜を加味し、食量には制限なく、彼等の飽食を以て度となす、卽ち滿腹主義にして、實に本院教育の根本なり。

精神教育の秘訣として、斷えず實行しつゝあるは、密室教育なり、卽ち人なき所に於て、對坐薫陶するものにして、家庭に於ける主婦、學校に於ける教師は、常に其委托せられたる兒童を、代るゞ自分の居室、若くは教場に招致し、十分乃至二十分間、親しく互に心情を吐露し、毫も隔意なきにあるなり。

岡山博愛會施療院。花畑に在り、明治三十八年中、米國人エー、ビー、アダムス嬢の創立せるものなり。本院は、窮民の病苦を救濟し、兼て信念の

向上を圖るを目的とし、醫師・藥劑手・看護婦・附添人を置く。毎週、月・水・金の三日を以て、午後三時より施療す、創立以來、施療人員一萬八千百四十八に及ぶと云ふ。現今、幼稚園を附設せり。

萬歲山國清寺。禪宗の巨刹にして、小橋町に在り。慶長九年當時姫路の城主池田輝政の創建にして、初め萬歲山法源寺と稱し、男山にありしを仝十八年輝政卒し、其法號に因みて國清寺と改む。而して寛永九年光政封を岡山に受くるに及び今の地に移し再修せり、池田氏累代の香華院にして、境内老松蓊鬱自ら清淨の氣に滿ち、幽邃閑雅なり。寺寶には景清の守本尊と稱せらるゝ一寸八分の觀音像、後醍醐天皇の御宸翰、後水尾天皇御宸筆の和歌、光政筆法華經等あり。

佛住山蓮昌寺。日蓮宗の巨刹にして東田町に在り。正平年中、松田將監元賢の創建に係る。元賢法名を蓮昌と云ふによりて寺號とす。初め岡

山城大手筋に在りしを後に森下町に移し、復、今の地に移したるものなり。天正年中直家之を修築せりと云ふ。表門より本堂に至る左右に支院八坊あり、本堂(十八間四面)の右側に守護神祠あり、最尊一丸大明王と云ふ。其他祖師堂・三重塔・鐘樓・方丈等の建物多し。寺に日像上人の眞筆にかゝる大曼荼羅を藏す、其大さ唐紙七十八枚繼ぎ、横一丈三尺、縱二丈三尺あり、每春秋開扉を行ふ。老幼婦人數万の賽人、一齊に妙法蓮華經を唱へ其聲地を動かし、天を驚かすと云ふ。

藥師院。磨屋町にあり。眞言宗に屬し、宇喜多秀家上道郡沼城より此地に移りし時、沼城の木材を以て造營せしものなりと云ふ。僧津梁の開基。上道郡平井村にて、漁夫の海中より拾ひし佛像を安置したるに始まると云ひ、今猶其佛體には蠣の殼を附着す、と云ふ。寺院亦廣くして、境内に支院多かりしも、今は敗滅に歸したるもの二三あり。

菩薩會孤兒院。明治三十一年三月七日の設立に係り、初め英田郡倉敷町に在りしが、今は磨屋町に在り。同院は、眞言宗の教義によりて、院兒を教養し、無恃の孤兒を收容せり。院内に教師を聘し、學齡に達せる兒童を教育せしめ、學業の餘暇には、實業趣味を養はしめ、狀袋の製作、麥稈眞田・藁工に從事せしむ、斯くて漸次獨立自營の道を知らしめ、併せて佛教に依る感化を與へ、嚴父、慈母の下に教育せられたる忠良なる臣民に比肩せしめんと、盡力教養しつゝあり。

金光山岡山寺。天臺宗の巨刹にして千手觀音を本尊とし、磨屋町に在り。天平勝寶元年、報恩大師勅を奉じて、建立したるもの、始め、城主金光宗高の菩提寺として、城内第二廓に在りしを、天正年間、直家城を築くに當り、今の地に移せるなり。寺に三千佛像の畫、善光寺如來御手判金塗厨子入、善光寺如來三國傳畫三幅、弘法大師筆不動尊像一幅、直家の

塑像及び建治二年關白兼平在判の國宣一通等を所藏せり。明治庚子の歳、假に高等女學校を本寺内に設けしことあり、而して校は其後、今の大供の地に移せり。

物産。市の名産としては錦筵・絹糸・綿糸・熊野染・調布・吉備團子・米のなる木・水飴・鶴の卵・罐詰等あり。

俗謡

私しや備前の岡山生れ
米のなる木は未だ知らぬ。

池田光政。輝政の嫡孫(利隆の長子)にして、慶長十四年四月四日岡山城に生る。初め幸隆と稱ししが、元禄九年八月將軍家光の偏諱を受けて光政と改めしなり。幼年姫路の遺封を繼襲し、寛永九年八月十二日、二十四歳の時、岡山に轉封せらる。此より天和二年五月二十二日、七十四

歳を以て、命を終るまで、政を視ること實に五十年の久しき、其一生の事業、固より枚擧に遑あらざれど、常に自ら宵衣旰食して庶政を經綸し、家庭にありては齊家治國の好典型を示さる、又土木土功を經營し、學校を立て、學規を定め、不正の淫祠を廢し、僧侶寺院を振肅し、儒教を布き、善行を旌表し、文武を講習せしめて士風を奬勵し、旱霖饑餓を賑給し、又經濟救恤の施設等甚だ多し。明治四十三年十一月十六日正三位を追贈せらる。

御津郡

宗忠神社。備中濱街道の南六七町許り、今村大字上中野にありて岡山市を距る西南約一里とす、社は所謂黑住教會の本社にして明治十二年の創建に係り、教祖黑住宗忠を祀れるものなり。

黑住敎は安永年間黑住左京宗忠の創めたるものにして、左京は神官の子なりけれど、學術の素養あるなし。三十三歲にして兩親を失ひ、憂愁甚しく勞症に罹り三年癒えず、宗忠以謂らく、是皆天の所爲のみと、稍自得して慰藉する所あり、一日晨起、朝日を拜す、忽然太陽の其口に入るを感ず、宗忠謂ふ、今や天地生々の活物を復したりと、時に文化十一年、是より日神の靈を談じ、稍人を敎化す、曰く

人は日神の分靈なり、八百万の神々も日神の分靈なり、日の光明を仰ぎて生々せよ。

と、遂に一派を開き傳道三十七年信徒大に加はり、嘉永三年二月二十五日七十一歲を以て歿す。既にして門生赤城某と云ふものあり、京都に赴き、宗忠の敎を廣む、頗る貴紳の間に信用せられ、孝明天皇の宸聽に入り、安政三年三月八日宗忠大明神の神號を賜はり、文久二年二月

二十五日京都神樂岡に鎭座せしが、慶應元年十月勅願所とせられ、翌二年更に從四位下を宣下せられ、明治九年十月に至り神道の一派に立ち黑住敎と稱することを允されぬ。現時の社殿は本社・拜殿・神饌所・社務所・守札所等にして、每歲春夏の二季及び冬至の大祭日には信徒蟻集し雜沓を極む。

富山城址。萬成城とも云ふ。伊島村にあり。文明中松田左近將監元成・赤松政則より伊福莊を增賜せられし時之を築けり、然るに松田氏金川臥龍山に移るに及び、其老臣横井土佐之を守りしが、後天正の頃より直家の弟宇喜多忠家の居城地となれり。而して其子左京亮成政に至り、宇喜多氏內訌あり成政城を棄てゝ出奔したりと。今も猶往々燒麥を掘り出すことありと云ふ。

備作惠濟會。石井村大字巖井字三門にあり、明治二十二年頃、本縣士族

花房端連等感化院を設けて刑餘頼るなき少年を救養せしに初まる、當時は其規模極めて狹少なりしかば、博く同志を糾合して、着々實施の方法を講せしに、偶々英照皇太后陛下の御大喪に當り、慈惠救濟の資として巨額の恩賜を辱ふせり、是に於て發企人等、感激奔走して會員の募集に力め、遂に三十年十月備作惠濟會を起し、現今保護・感化・育兒の事業をなしつゝあり。

保護院。　岡山市瓦町舊感化院跡にあり、出獄後、頼るなき壯丁の、保護及授産を目的とす、されば入院者は農業・日傭・木工等各自適當の職業に就かしめ、其素行勤怠は常に之を監督教誨し、且將來獨立の資に供せん爲め、賃金の幾分を蓄積せしむることゝなり居れり。

感化院。　刑餘無頼の少年及不良少年の感化矯正を目的とし、本部三門にあり、三門學園と稱し、入院者には、人倫の大本、國民の覺悟等を

初め、勸善懲惡の誨諭及び初等教育を施し、猶農・木・工をも課し、以て勤勞の精神を養ふことゝせり。

育兒院。　薄命の貧兒を救養するを目的とすれど未だ開院の運びに至らず。

私立關西中學校。　石井村大字巖井にあり、此地は岡山市の西部に接する地にして石井警察署の所在地なり。猶此地の私立關西中學校は明治二十二年八月の創設にして當時は私立岡山藥學校と稱し、岡山市東中山下にありしが、後岡山醫藥學豫備校、高等學校醫科豫備門等の改稱を經、岡山市野田屋町に移りしに、同二十七年十二月更めて尋常中學校の程度となし、仝三十一年十二月遂に此地に校舍を新築することゝなり、三十三年十月竣工移轉したるものなり。

岡山縣立種畜場。　伊島村大字上伊福にあり、岡山驛より約十五町、中國

鐵道湛井線三門驛より北八町に在り、明治三十六年十二月二十六日工を起し、翌三十七年五月二十三日成る。事業の主たるものは、年々種牡牛を購入し、當業者の希望に應ずる外、牡牛を飼育し犢の生産に力め、又牧草を栽培して其種子の配布を行へり。又他に豚・山羊及緬羊を飼育し、生産したるものは、民間の希望に依り之を拂下ぐる等專ら斯業の改良發達を圖れり。

備前一の宮、吉備津彦神社。中國鐵道湛井線一の宮驛附近にあり、縣社にして、備中の吉備津神社と境內相接す。社は推古天皇元年の創建にして、後一條・鳥羽・高倉及後深草天皇の時勅營あり、一時は山陽道中稀に見る所の壯麗を極めしと云ふ。現存の社殿は、慶長年中宇喜多秀家・小早川秀秋等の造營する所なるも皆功を竣へざりしかば、同九年池田輝直之を續け元祿十年池田綱政再建したるものにして池田家の

祖信輝・輝政を配祀するに至れり。境內約一萬坪にして老樹鬱々として茂生し清風颯々として、鳥聲自から閑なり。祭式は古來傳ふるものの尠からざる中に御田植神事は當社の神秘と稱し有名なり。猶本社に源頼朝・平泰時の御物以下、建武三年松田權守下知狀等十餘通を藏す。太刀一口、國寶として珍重せらる。猶祭日

八月二日、三日　夏祭　御田植

八月十五日　疫神祭

十月二十三日　秋祭　競馬

御田植の祭式。二日の夜十二時頃、御輿に稻を載せ、神殿より出で獅子大鼓の音賑はしく、池の側に至り、左右に別る、豫め二ヶ所に、池に突出せる臺を作り置き、神官其の上に至りいと神々しき儀式を行ふ。翌三日は午後二時頃オハタと稱し、村內有力者より、白木綿三反を竹

ハタに綴り付けたるもの、九本を造り、出主及村長は上下着て賑はしく役場より出でゝ神宮に献上すと云ふ。

篠瀬城址。一に烏山城と云ひ、伊島村に在り。安德天皇壽永二年、妹尾太郎兼康が倉光三郎兼光を和氣郡藤野に殺し、土兵を聚めて此地を扼し、自らは備中板倉城に據れり。然るに木曾義仲之を聞き、總官賴隆を嚮導とし、間道烏山より急に擊て之を拔き、直に板倉城に迫る。而して篠瀬の近傍に首塚あり、相傳ふ是れ義仲が其戰場にて獲たる首級を悉く埋めたりし所なりと。

第十七師團兵營。法界院驛附近に、嚴然たる幾棟かの建物あり、これ第十七師團に屬する營舍にして、第十七師團司令部・歩兵第三十三旅團司令部・岡山聯隊區司令部・岡山衛戍病院・岡山衛戍監獄・偕行社を初め、歩兵第五十四聯隊・騎兵第二十一聯隊・野砲兵第二十三聯隊、山砲兵第

二大隊・工兵第十七大隊・輜重兵第十七大隊・岡山陸軍兵器支廠等境を接し並び建てり。

玉柏の桃花。中國鐵道玉柏驛附近にあり、旭川の堤防に登れば、見顧る野山、打渡す田畑、眼の限り桃ならぬ所なし。殊に龍口の翠巒巍然として屏風を繞らしたる如く其前に聳え色彩の配合眞に妙を得たり。

笠井山妙法寺。牧石村大字鮎畑に在り、藥師を安置す、門前、龍燈松あり、龍神來りて毎夜松枝に燈火を點せしなりと、山の絶頂に經塚を築く、方二間許り石を積みたり、又山中に笠朝臣の古墳と稱するものあり。

金山寺。牧石村大字金山寺に在り、玉柏驛附近より登るを得、天臺宗の巨刹にして元と觀音寺と號し、天平勝寶元年報恩大師妙見蜂(今の寺の西北、一本松)に創建したるもの、實に同大師創立國内四十八ヶ寺の本山と云へり、然るに延久元年火災に罹り、康治年中今の地に移せり。

本堂には報恩大師作千手觀音像を安置し、其左右護摩堂・開山堂・三重塔・護法堂・三王權現祠・稻荷祠・豪圓僧正堂・葉上僧正の廟等あり、地は背後に金山の峻嶺を負ひ、南方は開けて兒島灣及び讃岐の翠巒を望み、眺望頗る秀麗なり。又寺寶には、榮西禪師の唐より携へ來りたる迦葉尊者袈裟、密器金剛鈴鈷、紺紙金泥の法華經(光明皇后御筆)不動明王像(弘法大師作)五大尊像(同)禁中九重守版木(傳敎大師彫刻)葉上僧正の木像、宇喜多直家法體の像、池田輝政衣冠束帶の像、古來の判物數多を藏す。

金川村。津山街道の一驛にして、人口二千餘、地は宇甘川の旭川に合流する落合に當り、風光明媚なり、元と津高郡役所の在りし地にして、今は岡山區裁判所出張所・私立金川中學校・私立敎員養成所等あり、物産としては旭川の鮎・鎌・鍬・竹細工・紋蓆等を產す。

金川城址。臥龍山上に在り、文明十二年松田元成以後、十三世の居城なりしが、元勝に至り、大に日蓮宗を信じ、他の僧侶をして轉宗をなさしめ、從はざるものは其寺を燒きし等の事實あり、遂に士民の怨みを買ひ、離散するもの多かりしかば、永祿十一年宇喜多直家の爲めに滅ぼされたり。かくて直家は其弟春家をして此城を守らしむ。

妙覺寺。金川停車場より十町、臥龍山の南麓に在り、日蓮宗不受不施派の本山として名高し。

虎倉城址。宇甘西村大字虎倉に在り、永祿中伊賀久隆(宇喜多直家の女婿なり)の居城地なりしが毛利・小早川兩氏備中を略するや、備前を侵し此城を攻む。久隆豫め銃手を伏せ、敵の迫るを待て一齊に射擊し、城兵之に乘じて突進し、敵兵敗走したり。後直家讒を信じて久隆を毒殺し、老臣長船越中をして此城に居らしむ。

加茂山。郡の北部に在り、山中樹木多く殊に松・樅・杉・樫等の良材を出すを以て名あり、又山の西南に鹿殺と稱する難所あり、懸崖數仞、其根脚を見ず。

圓城寺。圓城村大字圓城に在り、日蓮宗に屬し、元正天皇靈龜元年の創建にかゝり、往時は正法寺と稱し本宮山にありしを後今の地に移したりと云ふ。

此地に岡山區裁判所出張所あり。

八幡溫泉。上建部村に在り、津山線福渡驛より南傍かに三町餘、旭川の岸に溫泉場ありて、交通便宜、且つ清流軒を廻り、翠巒四方を圍み頗る塵熱を洗ふに堪へたり。溫度攝氏二十八度、單純泉にして皮膚病・癩痲質斯・子宮病に効あり、年々遊浴の客增加すと云ふ。

建部（たけべ）。眞庭郡美甘、二川、八幡三村及び御津郡建部の地は、景行天皇、皇子日本武尊の早世を惜み、其武名を後世に傳へんがため、置かれたる御名代の地なり。

町村名及戸數人口……三十村。

町村名	現住戸數	現住人口	大字名
牧石村	六一七戸	二、九二六人	玉柏、金山寺、畑鮎、中原、原
御野村	五六二	二、二〇一	北方、宿、三野
伊島村	七九三	三、一八二	上伊福、津島、萬成
石井村	四九六	二、二〇五	巖井、島田
大野村	五五九	二、六七一	高柳、大安寺、野殿、北長瀬、野田
鹿田村	四九三	二、二九九	大供、内田、東古松、西古松、岡、奥田、二日市
今村	四八二	二、四九〇	今村、上中野、下中野、中仙道、西長瀬、田中、辰巳、平田
芳田村	四五六	二、一四九	萬倍、西市、米倉、當新田、泉田、新保、富田
福濱村	八四五	四、〇四八	十日市、豐成、青江、洲崎、濱野、福田、福成、福島、福富
白石村（しらいし）	三三四	一、五九二	今保、久米、白石、花尻

一宮村	五三五	二、六〇六	尾ノ上、一ノ宮、西辛川、辛川市場
馬屋下村	四一七	一、九六七	大窪、松尾、芳賀、福谷、長野、横尾
平津村	三八一	一、八五九	今岡、佐山、山崎、楢津、首部
横井村	六八二	三、四四九	中原、宮原、田益、横井上
野谷村	四二一	二、〇二一	柏谷、吉宗、菅野
馬屋上村	三二〇	一、五一五	田原、宮吉、三和、日應寺
牧山村	三九六	一、七六七	高野、北野、下牧、中牧、中山
宇垣村	五〇一	二、五四〇	野々口、吉尾、宇垣、河内
金川村	四五三	一、九八一	金川、草生、鹿瀬
上建部村	二八五	一、四六五	建部上、宮地、宮澤、田池于、品田
建部村	三四五	一、六六七	櫻、市場、中田、西原
宇甘東村	三一九	一、六二〇	高津、下田、宇甘、中泉
宇甘西村	三七八	一、九二三	紙工、虎倉、勝尾
加茂村	三二二	一、五八七	廣面、上加茂、下加茂
福山村	二四二	一、二一九	平岡、高谷、美原、加茂市場

長田村	二七六	一、二九九	下土井、富永、和田、井原
圓城村	八〇二	三、七三六	三納谷、細田、上田西、上田東、圓城、案田、高富、神瀬、船津、小森
豐岡村	二四七	一、二七五	豐岡下、三谷、大木、豐岡上
新山村	二七八	一、四二五	福澤、尾原、笹目、溝部
江與味村	二九一	一、五一七	粟井谷、江與味、杉谷

赤磐郡

瀬戸。山陽本線瀬戸驛のある所にして、津山及び西大寺への要路に當り、地に赤磐郡役所・警察署・税務署等あり、岡山を距る鐵路九哩半、陸路四里三町なり。

町刈田。鳥取上村に屬し、郡の西南隅西高月村牟佐より東北隅に至り、美作に通ずる縣道の中央にあり、元と赤坂郡役所のありし地なり。

千光寺。高陽村に在り、天平勝寶年中報恩大師の創造にして、天正十八年、沼田左衛門太夫再造の由の棟札あり、往古は龍王山にありしを火災に遇ひて後、今の地に移せしなり。

輕部。町刈田の北方にある一驛にして其東輕部は元と赤坂・磐梨郡役所のありし所なり。今此地に岡山區裁判所出張所あり、其他報恩大師の創立せる正滿寺・西光寺・淨土寺等あり、何れも四十八所の員中なり。

猶大字多賀に北斗星の精靈なりと稱せらるゝ紫權現あり。

八幡神社。竹枝村大字小倉に在り、延喜以前の勸請になる古祠なるべしと云ふ。地境風光また佳なり。

布都之魂神社。布都美村大字石上に在り。布都魂神を祭る、創建年月詳かならざれども、社傳に據れば、崇神天皇の御宇大和國山邊郡より此地に移し、後一旦廢絕せしを、寛文十年國守池田綱政其舊趾を卜して

社殿を再築し、累代神領を寄附せりとぞ、社地は登路八町餘の丘陵にして、滿山松柏鬱茂し、本殿・拜殿・神樂殿・神饌所等あり。

龍天山。久米郡の境に聳へ、高千五百尺、其山脈東北に走り兩郡の境に連れり。

布勢神社。龍天山の南、仁堀村に在り、往古は龍天山に在りしを移せるなりと云ふ。式内神社にして昔は京都賀茂の神主松下氏の所務なりしなり。

周匠。郡の東北隅、吉野川と津山川との會合點に在り、美作に通ずる要驛なり。

澤原。小野田村字澤原は萬富驛の北一里十町、小野田川に沿ひ、元と磐梨郡役所の在りし地なり。

佐伯。澤原より更に北二里、大王山の南麓に在り、蒟蒻の產地として名

あり。

吉岡一文字、瀬戸の東北を元と吉岡庄と曰へり、古刀工吉岡一文字は此庄の住人なり、今も附近、太田村に鍛冶屋村の字あり。

和氣清麿墓。豐田村大字松木に古碑あり、和氣清麿の墓なりと云ひ傳ふ。墓地は間口二間、奥行五間にして塀を以て圍めり。

町村名及戸數人口……二十四村。

町村名	現住戸數	現住人口	大字名
西高月村	五五九戸	二、七二八人	牟佐、馬屋、和田、岩田、穂崎
高陽村	八三七	四、二五二	長尾、立川、河本、下市、熊崎、南方、齊窩、沼田、中島
西山村	四五七	二、三二五	日古木、二井、高屋、上市、正崎、尾谷、津崎、神田
烏取上村	四八五	二、四七五	鴨前、四中、下仁保、上仁保、斗有
輕部村	四二八	二、〇四一	山口、由津里、西窪田、東窪田、大苅田、町苅田
笹岡村	三三〇	一、六一五	西輕部、東輕部、南佐古田、北佐古田、今井、多賀
			小原、坂逸、惣分、大屋、山手

周匝村	三九七	一、九九七	福田、周匝、草生、河原屋
山方村	四三七	二、三三五	是里、瀧山、黑本、黑澤、中山
仁堀村	四六三	二、一六六	鹽木、戸津野、中勢實、仁堀西、仁堀中、仁堀東、平山
布都美村	三七六	一、八三〇	廣戸、西勢實、小鍬、石上、合田、中畑
竹枝村	四五五	二、二三三	大田、吉田、土師方、小倉、長谷
五城村	五二六	二、五四一	平岡西、矢知、新庄、伊田、矢原
葛城村	二一〇	一、〇二六	芳谷、國ヶ原、川高
佐伯北村	二四二	一、三〇三	稻蒔、光木、石、八島田、暮田
佐伯本村	三二三	一、六〇二	父井原、佐伯、米澤、津瀬
佐伯上村	二九九	一、四九二	田賀、宇生、矢田部、加三方、小坂
石生村	三七一	一、七八三	田原上、田原下、原、本
豐田村	三八七	二、一七一	圓光寺、吉原、河田原、釣井、德窩、小瀬木、松本
小野田村	二八二	一、四一八	澤原、殿谷、岡、佐古、酌田
可眞村	三九六	二、〇一六	可眞下、可眞上、彌上、野間、稗田、石蓮寺
太田村	三五四	一、六六四	二日市、萬富、大井、鍛冶屋

吉岡村	二六一	一、二六一	宗堂、鹽納、坂根、南方
物理村	四一九	一、七三五	森末、寺地、光明谷、瀬戸、下、沖
鴻瀬村	三五一	一、八二九	江尻、肩脊、大内

和氣郡

大内神社。香登村大字大内にあり。萬富驛の東南約一里半、鄉社にして大山祇神・木花咲耶姫命・大市姫命・大香山戸神等を祭り十月二十三日を祭日とす。社殿は元祿十六年二月の建築にして構造高雅今尚存せり。四社大明神(中世の神號なり)と彫刻せる額一面を藏す。

猶此地に天神社・大瀧神社・油瀧神社・姫神社・石長姫神社等あり何れも村社に列す。

大瀧山福生寺。仝村仝字にあり、眞言宗に屬し、天平勝寶年間鑑眞の開

基に係る。現存せる建物は嘉吉年間足利義教の建立せるものにして本堂・經堂・十五堂・仁王門・大師堂・釋迦堂・三重塔等なりとす。此地は臥龍松の北十八町許りの林間にして、大瀧山瀑布あり直下三間、左右の峭壁緑苔を着け、松樹鬱茂し、幽邃を極む、近時避暑の雅客漸く多し。

三級瀧。大瀧山瀑布の上流にあり、高さ十五間幅二間なれども水量乏しく瀧壺なし、且つ近傍樹木稀にして只奇巖峨々たるを見るのみ、其風緻雅量遠く前者に及ばずと云ふ。

臥龍松。香登村大字大内、津田謹吾氏庭園にあり。正德三年大内村の名主一井克明の初めて植ゑしものにして、文化年中より年々培養の資として、米三石を附與せられしと云ふ。幹の高さ二十五尺、周圍十八尺九枝を四周に伸張し、東西二十五丈、南北十二丈あり、實に稀世の巨松にして其樣臥龍に似たるより此名あり、來觀するもの多く。

雲の上にきこえあけてむ大内の
里にも高き松のほまれを。
移し植ゑし主はと後に人間はゝ
ともに榮ゆく松は答へよ。
千年經る契も久し松の花
十かへりすらむ御代のはつ春。

等の詠歌多し。臥龍松の名は池田綱政の賜ひしものなりと云ふ。

伊部燒。和氣驛の南二里、臥龍松より東一里に伊部村あり、此地の陶器は古來頗る著名にて世に備前燒とも稱す。應永年間始めて此地に窯を開きしに始まる、當時造る所のものは唯種壺・種浸壺の農具のみなりしが、其後花瓶等を造るに至り、漸次改良して天正年間始て茶壺を製す、後稱して古備前と言ふ、其良工を三日月六兵衛と云ふ、殊に卓越

せる技倆を振ひ、其作る所の陶器に缺月の記號を印す、其後擂鉢、酒壜を製するを以て聞え、備前須理波知・備前登久里の名一世に高かりき。而して古備前は微青色の釉を施し、其火候度に過ぎ、茶褐色に變ずるを以て佳とす、皆肥厚にして其質堅實なること我邦に冠たり。然るに伊部燒は茶褐色の釉を施し、更に其上に黄色の濃釉を撒し、種々の形狀をなし、以て古備前と稱を異にす、偶像あり、動物像あり、茶壺・食器に至るまで奇形のもの多し。古來職工六家あり、森氏・木村氏・頓宮氏・金重氏・大響氏・寺尾氏之なり、各業を傳へて今日に至るも維新の革命と共に一時大に衰頽したり。有志者之を慨し、明治十一年伊部陶器會社を組織し、主として土管製造の事業に從ひ、二十九年更に備前陶器株式會社を起し、巨大なる瓦斯輪層窯を新築し、石炭を用ゐて、盛に土管の製造を爲すに至れり。

片上町。和氣驛より二里十八町、三石驛より二里餘、郡の南部山陽街道の一名邑なり、元和氣郡役所のありし所にして、今區裁判所あり、市街内灣(片上灣)に臨み、碇泊の便を有す。

日生町。片上町の東二里、吉永驛の南東四里にあり、往古星村と云ひしが大火災に遇ひ全村悉く烏有に歸したることあり、これより日生と呼ぶに至れりと傳ふ。前に鹿久居島・曾島・鴻島・大多府島等大小の島嶼星散羅列し、風光甚だ美に、附近漁業を爲すもの多し。

閑谷黌。吉永驛の南約廿町にして伊里村大字閑谷新田に在り、曾て碩儒熊澤蕃山が藩公の命を奉じて子弟の薫育に當りし所。靈元帝寛文六年國主池田光政、木谷村の地を相し、學校建設の意匠あり、全八年先づ手習所を此所に設け、尋で全十年五月木谷村字延原に學校を建設せしめ地を閑谷と改む。全十二年學房及飲室成り延寶元年講堂成り

同二年聖堂成り、閑谷壁書を定め講堂に掲げしむ、越えて貞享元年新聖堂成り、同三年東祠堂成る。東祠堂は光政を祭る所にして聖堂の東にあるを以て此の稱あり、後此を芳烈祠(光政の法諡に因る)と稱す。又同十五年椿山成る、これ光政の髭髮齒爪を納めし所にして、四圍に椿を植るを以て此稱あり、寛文十二年には津田重二郎永忠の督せる校舍成りしを以て、氏をして學校の事を視しむ。此より教授の職員並に生徒を置き、累世沿襲して廢藩に至る。而して此名黌は明治維新後、教育制度の變革せるが爲めに、一時之を閉ぢたりしも、國内の有志者、名黌の荒廢を惜しみ、明治十七年保黌會を興し、義捐金を募りて之が維持を圖り、名儒碩學を聘して再び校門を開き、三十六年、中學校令に依り、其組織を改め、中學校の教科を學習せしむるに至れり。

閑谷神社。黌の傍にあり縣社に列す。これ明治八年池田氏の舊臣等相

謀りて芳烈祠を修補し、輝政・利隆をも合祀し其十月閑谷神社と改めたるものなり。

熊山。郡の西南、和氣驛の東南二里、萬富驛より一里半にあり、高さ一千六百七十八尺、山勢高峻にして茸類を產すること多し。山頂に熊野神社あり大國主命を祭る。又帝釋山靈仙寺は天平寶字年中鑑眞和尚の開基と稱し、天臺を奉せり、然れども今荒れて廢せりと云ふ。

熊山城址。熊山の山頂に在り。元弘の亂、伊東大和守官軍に屬して此城に據りしが、後、建武二年兒島高德又此に據り、松田十郎盛朝と戰ふて克たず、高德總に身を以て免れたり。更に延元元年脇屋義助等新田義貞の命を受け石橋和義を三石城に攻むるや、高德一族二百餘人と再び此地に據りて遙に義助に應じ、奮鬪力戰大に賊兵を敗り以て義助等をして容易く三石の城を拔かしめ得たりと云ふ。

和氣町。吉井川に沿へる小市街にして、人口約二千を有し作州倉敷、津山等への街道の衝に當り又南に一嶺を越えて片上町への通路あり、殊に津山町より舟運の便あるを以て、作州よりする貨物の集散多く、交通運輸の利多し。岡山を距る七里三十五町、鷲湯溫泉へ七里、此地に和氣郡役所・警察署・片上區裁判所出張所・和氣銀行等あり。

住吉山。驛前にあり一名和氣富士と呼び、天正中の古城砦なりしと云ふ。

曾根の櫻。和氣富士の麓縣道側にあり、數百の吉野櫻、金剛河の清崖に俯せ、滿朶を綴り染む。

安養寺。驛の西約十町にあり、金剛川鐵橋より、北方梅林中鐘樓の高く聳ゆるものこれなり。寺は天平勝寶元年報恩大師の開基と稱し、後、康保元年勅旨に依りて重興せられし古刹と云ふ。鎌倉幕府の當時に祈

願所として寺領四十八町を附與せられしと云へり、寺に二十餘通の古文書を藏す。

天神山。和氣町より北一里半、山田村大字岩戸村、倉敷川の東岸にあり、汽車中より望見し得らるべく、高さ一千三百四十三尺あり。山は流れに臨み、奇巖怪石峨然として一大山脈をなし、青松綠樹、岩石の間に雜生し、風致頗る秀麗なり、浦上宗景の城址あり。

天神山城址。浦上宗景の居城地なり。初め宗景播州室津城にありしが、兄政宗と隙を生じ、享祿四年に至りて、居を此地に徙し、備前並に美作の二國を領せり、時に其臣宇喜多直家威權日に盛んにして天正中遂に主從の間に衝突起る、直家赤松則房を誘ひ天神山を圍む。城將明石景親叛き火を縱つて城を焚く。宗景夜に乘じ家臣七八人と遁れて播州室津に走れり。

和氣清麿の墓。和氣驛の東北藤野村實成寺内にあり。寺は天正年中の創建なれども、古より境内に方五間許の塚あり、經塚といひ、塚をこぼちし少し許り殘れる上に三十番神の堂を建つ。

和氣清麿。本郡の人なり、其先は鐸石別命より出づ、命の曾孫弟彦王、應神帝の時軍功あり吉備磐梨縣を賜ふ、因て此所に家す、清麿は其裔なり、資性抗直にして忠誠比なし、孝謙天皇の御代、僧道鏡の非望を企つるや、清麿、宇佐八幡宮に使し、還りて

我が國家は開闢以來君臣の分定まれり、臣を以て君と爲す未だ之あらざるなり、天日嗣は必ず皇胤を立て無道の人は宜しく迅かに掃蕩すべし。

と、奏す、此を以て道鏡の怒りに觸れ大隅に流さる。後、光仁天皇の時、召還されて、本官に復せられ、次で備前・美作の兩國造となる、桓武の代、長

岡新都營造十年にして成らざりしかば、清麿、密かに奏請し、遊獵に託して葛野の地を相し、以て都を遷すに至れり。かくて延暦十八年薨ず、年六十七、後、明治三十一年三月十八日正一位を贈り、護王明神の號を賜ひ別格官幣社に列せらる。

和氣廣嶋。清麿の姉なり、初め從五位下葛井戸主に嫁す、廣嶋人と爲り貞順にして節操至て高く、孝謙帝の爲に愛信せらる。帝落髮せらるゝに及び、廣嶋も亦薙髮して法弟子となり、法均と名づく、嘗て藤原仲麻呂謀反の企てあり、誅に伏するや、連及して斬に當る者數百人あり、法均帝を諫め死を減じて流に處せしむ、又此亂後飢疾して、民間子女を養育する能はずして棄つるもの多かりしかば、法均人を遣はし收養せしめ八十三兒を得。其後弟の事により罪に問はれ、備後に流されしも、光仁の代、召還され累進して正四位上典侍となる、七十歳を以て弟

と同年に卒し、天長二年正三位を追贈せられたり。

芳嵐園。吉永驛の西方二十町、和氣驛の東方二十町、藤野村日笠川の西岸にあり、川に沿ひて道の兩側には既に櫻樹あり、園には千數百株の花あり、花の下をくゞり、淙々たる日笠川の流れに架れる霞橋を渡れる所に猿目神社あり。眞に好位置を占め、園内廣からずと雖も、人爲を加へず、千株に餘る吉野櫻、芳野、嵐の俤一つによせし面影ありとて芳嵐園の稱呼あり、且つ山に小池あり清澄鏡の如く熊澤蕃山の所營と云ふ。

猿目神社は天鈿女命、猿田彦命、應神天皇を合祀し、社殿は壯麗と云ふにあらねど清雅掬すべきものあり。

和意谷。池田家廟墓。吉永驛の西北二里半にして、神根村大字和意谷にあり、池田氏累世墳墓の地にて、其塋域數郭を成し、一ノ丸、二ノ丸、三ノ

丸等の稱あり。寛文六年十月、光政封内を巡回し此地を相して千歳の佳域と爲し祖輝政の遺骨を一ノ丸なる山頂に埋藏し、長さ一丈餘、横五尺餘の巨石を以て大龜の形を刻し、其上に高さ一丈餘の碑石を建て、碑の上部に羊の形を勒す、輝政は羊の年に卒せしを以てなりと。其左右に利隆公・光政公其他一門累代の墓碑相次序して數十基あり。又新丸には維新後卒去せし慶政、同夫人の墓あり。周圍には石壁を繞らし頗る壯麗を極む。

八塔寺。　神根村の奥、三國村大字多麻に在り。昭塔山と號す、此寺天臺宗を奉じ、道鏡の開基と傳へ、元暦元年源頼朝方一里の地領を寄進して祈願所となせりと云ふ、今の堂宇は池田忠雄侯の造進にして其鐘樓は光政公の造營と云ふ。今も平景時在判掟狀(元暦元年六月)武藏守平朝臣狀(承久三年八月)等を收藏す。

深谷瀧。　三石驛より東北十二町に在り、國道の右傍に標石を建つ、此より沙礫深き阪路に就き、右に折れ左に曲りて漸く瀑に近づけば、未だ之を見ざるに早く既に水聲の韡韜たるを耳にし、一岩角を過ぐれば、前面懸崖の上より一大飛瀑の落下するを見る。是れ卽ち雄瀧なり、瀑は直下三丈九尺、幅六尺宛も素練を懸くるが如く其下は潭となり、水色蒼碧深さ測る可らず。瀑水深潭より溢出して小飛泉を爲す、之を雌瀧と云ふ、絶壁の中腹に不動尊の像を安置し、瀑の傍らに水神の小祠あり、境地幽靜清涼なるを以て夏時來り遊ぶもの多し。

三石町。　町は縣内に於ける山陽線の第一次驛にして、舟坂山の西麓に位し、山間の小驛に過ぎざれども、地に大なる蠟石坑ありて、盛にこれを採掘し、耐火煉瓦・石筆・蠟石細工等を産するを以て著名なり。

三石蠟石。　蠟石坑は驛より西南七町にあり、初め慶長年間八木淨

慶の發見せるものにして、藩祖池田輝政の肖像を此石にて彫刻したるに起因す。其像今驛の西南三十町なる鏡石神社にあり。

三石城址。昔元弘二年伊東大和次郎此地に築寨して山陽道を扼せしより、建武三年春、足利尊氏九州沒落の時、當國の住人田井飽浦・松田内藤等を大將として官軍を押へん爲め栖籠らしめしが、新田義貞の爲めに陷れられたり、其後間もなく、尊氏東上するに及びて、又賊の有となり、赤松氏の臣、浦上宗助の居城地となり其子孫數世に及ぶ。

坂長。三石町の地にして、往昔山陽官道の第一驛に當る。當時の官道は坂長を經て和氣の渡(吉井川)を渡り珂磨(赤磐郡石生村大字松木)高月驛(赤磐郡四高月村大字馬屋)を過ぎ、裳佐の渡(旭川牟佐の渡)を渡り、津高(御津郡馬屋上馬屋下村)を經て、備中國津峴(都窪郡山手村大字宿)河邊(河邊村)小田(後月郡矢掛町)後月(小田郡井原町)を經て備後に通ぜるものにして、驛馬の數は津高のみ十四匹にして他は悉く二十匹なりき。

町村名及戸數人口、……四町十四村。

町村名	現住戸數	現住人口	大字名
熊山村	二九六戸	一、四八三人	弓削、勢力、千體、奥吉原
鶴山村	二八〇	一、三三六	新庄、富田、福田、坂根
香登村	三九三	一、八一三	香登西、香登本、大内
伊部村	六六九	二、六六六	伊部、浦伊部、久々井
片上町	五二二	二、三三〇	西片上、東片上
伊里村	九三七	五、三九一	蕃山、麻宇那、木谷、閑谷新田、穂浪、伊里中、友延
日生村	一、一四四	五、五七三	日生、大多府
福河村	六二〇	三、四〇二	寒河、福浦
三石町	七二九	三、三一二	三石、八木山、野谷
英保村	四二五	二、一七七	福滿、金谷、南方、吉永中、三股、岩崎、
神根村	二九二	一、五三五	神根本、今崎、高田、和意谷
三國村	二五六	一、四〇二	加賀美、多麻、都留岐、笹目

藤野村	四六五	二、二六五	吉田、藤野、泉、大田原
本荘村	四七五	二、三四五	大中山、清水、衣笠、福富、日室、尺所
和氣町	四〇六	一、九二四	釜原、和氣
日笠村（ひかさ）	四五七	二、四六三	日笠下、日笠上、木倉、保曾
山田村	三九六	二、〇五七	矢田、岩戸、田土、丸山、南山方
鹽田村	三〇四	一、五四七	鹽田、奥鹽田、北山方、若木

邑久郡

乙子城址。太伯村大字乙子に在り。天文中浦上宗景の築きたるものなるが、宇喜多直家自ら請ふて之に居り、家臣戸川平介・長船又三郎・岡平内等と軍資を集めて四方を侵略し、砥石城（豐原村に在り）を陷れて沼城（上道郡浮田村沼に在り）に徙るに及び、宇喜多氏の威權日に盛なるに至りしと云ふ。

豐村八景。上道郡西大寺町と吉井川を以て相對す。此地に八景あり。近

江琵琶湖のそれに模せるものにして、

永安橋の夕照、　鶴塚の落雁、　干田堤の晴嵐

浮根松の夜雨、　吉井川の漁火、　源が市の高瀨船

北堤の梅林、　上寺の晩鐘、

を云ふ。

浮根松。八景中の最たるものにして、大字濱と新村との間、吉井川及干田川堤に點々として連る。其根の附近なる土地風雨の作用を受け、悉く根上り松となりしものが、白砂と相映じて、宛ら舞子の濱に似たり。

和田範長の墳。豐村大字新地にあり。傳へ曰ふ、和田備後守範長播州阿彌陀が宿にて討死せし時、遂骸を故郷和田に賜はる、依て此地に葬ると、往時小社を建て和田明神と稱したりしが、明治十一年和田神社と改稱せりと云ふ。

安仁神社。國幣中社安仁神社は大宮村大字藤井にあり、西大寺町・牛窓町を連ぬる街道の南に位す。俗に三宮と稱し、仁明天皇承和八年の創建に係り、神武天皇の皇兄五瀬命を祭神とす。往時は社殿頗る宏壯なりしも應永三年の大災以後漸く舊觀を失ひしが、寛文十年國主池田綱政の力により再び壯麗なる建築を施せり。社に文明二年浦上美作守則宗の下知狀等を藏す。

弘法寺。藤井と鹿忍との間なる大宮村大字千手にあり、一に興法寺と書す。眞言宗に屬する名刹にして、天智天皇の比の創建なるが、養老年中雷火に燒盡し、後天平勝寶三年、報恩大師再建せり、而して延曆中復燒亡し、空海重興せる所と傳ふ。千手觀音を安置し、寺內永倉峰に報恩大師の墓あり。

牛窓町。岡山市を距る六里三十一町、邑久郡の東南端、瀨戸內海に瀕し

郡の良港・船舶の碇泊に便なりと雖も、前面牛窓瀨戸の幅員狹く且つ西側急に淺きを以て大船舶の寄港に便ならず。今人口約四千五百・警察署・岡山水上警察署分署・專賣所味野支局出張所(鹽)、牛窓銀行等あり。又材木商・船大工等多く附近漁業甚だ盛なり、且つ海水浴場ありて夏時來浴するもの頗る多かりしも其繁盛今は兒島方面に奪はれたり。

万葉に

牛窓の浪のしほさゐ島ごよみ
よせてし君にあはずかもあらむ

牛窓本蓮寺。永享年中邑主石原但馬守道高の創建せる日蓮宗の道場にして其一族の墓あり。寺境一段高きを以て、內海を望み風光頗る佳く、江戸幕府の頃は、屢々朝鮮信使を此港に饗しゝとき、常に其旅館に充てたりしと云ふ。

砥石城址。豐原村に在り、明應・大永の頃宇喜多能家の居城地なり。能家・浦上氏の老將として威名あり、村宗の時同僚、島村豐後入道觀阿彌（砥石城の四方三町、許高取の城主）能家を忌み天文三年六月三十日擊て之を殺す、能家の初孫僅に免る、長じて直家と云ふ。浦上宗景に仕へ遂に豐後を殺し、祖父の仇を復し、又浦上家を覆滅して諸侯となる。

今木城址。今城村字向山に在り、安德天皇壽永三年豐後人臼杵二郎惟澄、緒方三郎維義、伊豫人河野四郎通信等二千餘人が據守して平氏に抗したる所にして、平敎經が攝津福原より三千餘騎を率て來り攻め、城兵潰走したる址なり。後、建武年間兒島三郎範長の族今木範秀の居城となりしことあり。

邑久村。郡の中部に在り、岡山を距る東約四里半にして、大字尾張に邑久郡役所・岡山區裁判所出張所を置けど僅に一小邑に過ぎず此地の

米、麥は本郡第一と稱せらる。

福岡城址。行幸村大字福岡にあり。永享の頃赤松淡路守滿弘の居城たりしが、赤松氏亡び、山名相模守敎之、備前を領するや其臣小鴨大和守、頓宮四郎左衞門等をして守らしむ。應仁の亂起るに及び、赤松左京大夫政則に奪はれ、其臣浦上則國の居城となり、文明十五年十月松田元成、山名俊豐等來り攻めしも、拔くこと能はず、既にして、則國の兄則宗赤松氏に叛きしかば、則國孤立援なく、逃れて播磨高田に走り、城は遂に元成に燒かれたりと云ふ。

長船。行幸村大字長船は福岡と共に古來治工を以て聞ゆ。就中長船流最も名高く、鍛冶屋千軒の稱ありし所なり。其祖友成は一條院の頃の人にして、源義經の金作、平敎經の櫻丸は實に此人の作なりと。嘗て後鳥羽天皇の御宇、諸國の鍛冶を月を分けて召し給ひけるにも備前國

は、則宗・延房・宗吉・助宗・行國・助成・助延の七人にして最も多かりしとぞ。世に之を番鍛冶と稱し、菊の御紋を賜はり、菊一文字と號しぬ。

虫明迫門。虫明は、邑久郡の東南邊、片上灣の南口にある海驛にして、古くより其名著はれたり。前面に長島横はり海峽をなす、所謂虫明迫門（せと）（裳掛（かけ）瀬戸）にして曙の景色頗る佳なり。されば古來勝地として雅客の詠歌多く、

虫明の瀬戸の曙見る折ぞ
都の事もわすられにけり　（玉葉集）

風あらき虫明の瀬戸の夕やみに
友呼びかはす夜半の舟人　（新千載）、

又附近よりは海鼠腸（このわた）其他の水産物を産出す、猶當地の虫明燒は一時高雅の名ありしも、今は其製造萎微して振はず只日用品を製するに止まれり。

犬島。牛窓町の西南二里、上道郡三蟠港より四里の内海中にあり、島中花崗岩を産するを以て名あり、其石は犬島石と稱し、其質純良にして、尤も永久性建築に適せり、故に舊池田藩累代の墳塋にも專ら此地の良材を用ひ、又皇居御造營・大阪築港の石材も皆此地より斫出すと云ふ。

犬島製錬所。坂本金彌氏の社長たる坂本合資會社にては、其所有各銅鑛山より産出する礦物及買礦を處理する爲めに明治四十二年二月此地に製錬所を設けたり、而して目下、一日約四万貫の礦石を處理し得る設備なりと云ふ。

町村名及戸數人口……一町十九村。

町村名	現住戸數	現住人口	大字名
邑久村	四二〇戸	二、一四五人	尾張、山田庄、山手、豐安
福田村	三四七	一、八一六	福元、百田、宗三、豆田、福中
今城村	四三八	二、〇一四	大窪、福山、向山、北島
豐原村	三八五	一、七九五	豐原、長沼、大窪
豐村	五二八	二、七八二	川口、濵、新、五明、門前、新地、射越
太伯村	五六二	二、六九九	乙子、神崎、邑久郷
幸島村	五九二	二、九四六	東幸西、西幸西、南幸田、北幸田、東幸崎、西幸崎
朝日村	一、一八九	五、〇五八	東片岡、久々井、犬島、西片岡
大宮村	五四六	二、五五八	宿毛、下阿知、上阿知、千手、藤井
鹿忍村	五七九	二、八七一	
牛窓町	八九五	四、四七四	
長濱村	四〇八	二、〇三六	
本庄村	四二二	二、一六六	本庄、上山田、下山田
玉津村	四七七	二、一九七	尻海、庄田

裳掛村	六二八	三、二三二	虫明、福谷
鶴山村	四一六	二、二〇五	佐山、鶴海
美和村	三七四	一、七一七	飯井、東須惠、西須惠
國府村	五六四	二、七二六	牛文、磯上、福里、土師
行幸村	四八四	二、四九〇	服部、長船、八日市、福岡
笠加村	二一七	一、一五二	上笠加、下笠加、箕輪、北池

上道郡

圓山曹源寺。岡山市より西大寺町に至る街道の途中、富山村大字圓山に在り。臨濟宗に屬し、元、兒島郡の郡に在りて永昌庵と號せしを、元祿十一年池田綱政此地に改め移し、其法諡によりて曹源寺と改む。岡山市國清寺と共に池田氏累世の菩提所として境内萬歳峰の下に其石塔數基あり。前門には「臨濟宗妙心寺派專門道場」と云ふ看板を掲げら

る。門を入れば東西二個の僧堂あり、西を栗棘叢と云ひ、東を大活堂と云ふ。太元和尚の筆に成りし額面あり。其他三層塔・鐘樓・鼓樓・方丈・庫裡等あり。境内は周圍數町に亘り、松杉蓊鬱として宛然仙境の感あり。客殿より庭前を見れば南方右側には藤棚あり、正面岩石の間に小瀑あり、池中の小岩に碎けて玉を飛ばす。猶十景あり。

萬歳峰、　百丈巖、　知津廟、　曹源水、
龜齡池、　萬松岡、　臨濟河、　群鶴田、
南明海、　金甲島、

三蟠港。　旭川の河口に位し、岡山を距る一里三十町、岡山市の前港をなし、其水運の門戸たり、汽船によりて四國及内海各地に到らんとするものは此地より出す。岡山市京橋下より通船あり。岡山水上警察署を置く。

岩間櫻。　西大寺停車場の南十三町、岩間山最明寺の境内にあり。往時最明寺時頼の手植と傳へ、花中より蘂を生ずる奇木なり。附近に小野小町姿見の井と稱するものあり。

西大寺町。　西大寺驛より南一里、輕便鐵道の便あり、吉井川の西岸に位し、西は岡山に通じ、南は九蟠港に近く、交通運輸甚便利にして人口約四千、商業頗る盛なり。岡山を距る二里二十七町又輕便鐵道の便あり。此地に上道郡役所・警察署・岡山區裁判所出張所・稅務署・高等女學校・鐘淵紡績西大寺綿絲工場・山陽板紙株式會社・眞言宗の名刹西大寺等あり。

金陵山西大寺。　西大寺は關西屈指の古刹なり。天平勝寶三年周防國玖加庄、藤原氏の女皆足の本願にして、古は金岡莊松中島に建てられたり。然るに寶龜八年僧安隆上人兒島郡槌の瀬戸に於て、龍神より犀角

を授得し、之を空中に投じたるに、今の寺地に落下す。安隆因りて皆足と力を戮せ、堂宇を此に移建し靈犀の角を埋め其上に本堂を設けたれば犀戴寺と名づけたりしを、中古足利將軍の時、字劃の多きを厭ひて西大の二字に改む。正安元年火災に罹りて堂宇盡く炎燒し、仙桂禪師之を再建し、文龜年中忠阿上人中興開山す。境域は西大寺川(吉井川)の岸上に石を疊みて坦地を築きしものにして、南に樓門あり、石を以て脚とし、(賴山陽の文字彫刻せらる)西に二王門あり、二王の像を安ず。今の本堂は光岳上人の再建する處にして縱十一間、横九間、堂内に千手觀音像を安置す(此觀音は兒島藤戸・都窪帶江の觀音と姉妹なりと云はる)本堂の北に牛王殿あり、拜殿其前に連り其西に隣りて庫裡・方丈・書院等あり、又石樓門を入りて左方に三重塔の屹然として聳ゆるあり、門の西南には永安橋、川に架れり。前岸は青松一帶長堤の上に鬱

茂し、梢を隔てゝ上寺の丘岡を望むべし。

洪鐘。安隆上人の兒島沖にて龍神より授かりしものなりと傳へらるゝ重寶洪鐘あり、これ實に高麗より渡來せるものにして、龍頭の背後に旗挿と稱する筒あり、其筒孔は下部に貫通せず、孔は一區九個、總計四區三十六個を有し、上部と下部との緣邊には、花葉を鑄出し、胴部には、天女奏樂の模樣あり、誠に本邦の逸品にして既に國寶となりて珍重せらる。

會陽。當寺有名の法會にして、又關西唯一の名物として、西大寺町の誇りとする所のもの、毎年二月十四日午後十二時以後に行はる。抑も此會陽なるものは、既に遠く開祖の時代に起り、以後七百餘年間は毎年正月元日より二七日の間、一山の大衆齋戒沐浴して觀世音菩薩の祕法を修し、天下泰平、國家安穩、五穀成就の祈禱を行ふのみなりし

が、中興忠阿上人住するに及びて、二本の午玉(神木)を授與す式ると變じて今日に至れり。かくて其加護あるを信じて信徒の來り集る者年々多きを加へ、後には他人の授かりし午玉を横奪するに至り、進退の自由を得んため數十年來參詣者は赤裸となる事となれり。今其模樣を一言せんに、午後八時過より境内は漸く裸體者增し來り、十頃時に至れば既に數万に及ぶ。此等の素裸連は深夜の嚴冬をも物ともせず、身體を西大寺川の水に清め、齋戒沐浴了れば本堂の前に整列し、曳應の掛聲勇ましく押し初む、かくして三度大鼓の音響く午前一時頃院主の大僧正は沈思默禱徐ろに寶前より一對の午玉を執り捧めく群集の頭上に投ず。待構へたる裸體衆はそれと許り鯨波を擧げて午玉の爭奪をなす、或は他人の頭を踰え、或は肩を踏みて牛王殿に詰掛け、蹴らるゝあり、倒るゝあり、怒るあり、泣くあり、境内人の山を築き、喧囂

の聲夜氣を破り天地も爲めに震はんとす。此怪絶物凄じき光景二三十分間、幸に之を獲たるものは豫て町内に設けられたる祝主に此を納めて終る。此奇觀を目擊せんとするもの或は汽車によりて京・阪・神・北陸・山陰・九州・四國より來り、十萬以上の群衆となり、此日の賽錢のみにて參萬圓に上ると云ふ、又以て其偉觀たるを想像し得べし。

巨勢金岡墓。 西大寺高等女學校の入口に近き所、道の左側に畫伯巨勢金岡の墓と稱するものあり、初め町の南金岡にありしを移せるものなりと。

巨勢金岡。 本郡金岡の人にして、巨勢派の開祖なり。其畫の妙なるは種々の傳說あるによりても知らる。嘗て勅命を蒙り皇居南の庇、東西の障子に歷代の鴻儒を畫く卽ち紫宸殿障子聖賢の像、これにして小野道風其贊詞を書す。

世人の傳ふる所によれば、御府の藏むる畫馬、毎夜萩戸の邊に於て萩花を嚙ふ、因て畫工に勅して筆を以て之を繫がしむるに果して止む、又仁和寺御室に藏する畫馬、毎夜近境の田圃に出でゝ稻苗を食ふ、里人怒りて兩眼を穿ちしに依り止めしと。又其妙技を察するに餘りあらん。

九蟠港。九蟠港は吉井川の河口にあり、兒島灣の口を扼し、北は金岡・西大寺町等に連り、亦碇泊に便なり。

國府址。西大寺驛の北、高島村大字國府市場は其舊址なり、今は寂寥たる一寒村にすぎざれども古へ吉備の國府のありし頃は、人煙稠密最も繁華を極めたりとぞ。

關白屋敷址。國府市場の東北に隣りて大字湯迫にあり、治承の頃、關白基房、平清盛の爲めに貶せられて此地に移され、居ること三年にして

遂に京師に歸れりと傳ふ。今も關白屋敷・武士屋敷と云ふ所あり。後明和三年十月國守池田繼政、其址に松樹を植ゑ、又高三尺五寸、方一尺の碑を建設して紀念とす、其碑今尚存せり。

最明寺舊趾。碑を距る西南數十步、梅林の傍らに最明寺の舊趾あり、北條時賴、諸國巡遊の際、寺刹を此地に創建す、然れども今は全く廢絕して僅に礎石を存するのみ。

龍口城址。湯迫の東北に龍口山あり高さ、九百六十尺なれども要害の地にして、穉所元常の居城址あり。永祿四年宇喜多直家屢々攻むれども拔くこと能はず、近臣岡剛介を放ち、伴りて元常に仕へ、間に乘じて之を刺殺さしめ、遂に此城を陷れたりといふ。

地藏院。古都村鐵にある一小寺なれども、延元三年足利尊氏の臣にして、高師直の從者藥師寺公義の建立せし靈雲山安國寺の跡なり。寺は

往時、壯大なりしも、明應年間火災に罹り其後次第に舊觀を失ひて今日に至りしものなりと云ふ。

藤原部。幡多村大字藤原の地は允恭天皇十一年、衣通郎姫の爲めに其姓によりて置かれたる地なり。

藤木鐵石。宇野村東川原に生る。資性沈毅にして勤王の志厚く、文久三年八月、松本謙三郎・吉村寅太郎等の同志五十餘人、中山忠光を奉じて義兵を大和十津川に擧げ、天忠組と稱し、大に爲す所あらんとし、先づ大和五條の代官鈴木源内を襲ひ殺しゝが、幾もなく幕府の兵來り攻め奮鬪決戰よく防ぎしも寡は遂に衆に破られ、其九月十九日遂に戰死せり時に年四十八、朝廷其忠烈を嘉賞し靖國神社に合祀し、又位記を追贈し從四位に叙せられ、且物を遺族に賜はりたり。

町村名及戸數人口……一町二十三村。

町村名	現住戸數	現住人口	大字名
宇野村	四五七戸	二、七九〇人	濱、西川原、竹田、東川原、原尾島、秤、八幡、中島
高島村	五〇四	二、四五八	賞田、湯迫、國府市場、中井、雄町、今在家、祇園、新屋敷
幡多村	三八〇	一、八〇一	闕、赤田、藤原、澤田、高屋、兼基、今谷、清水
財田村	六一二	三、一〇一	乙多見、神下、米田、長利、下、長岡、四御神、土田
古都村	四三八	二、二〇五	南方、藤井、鐵、宿、宍甘
玉井村	二七三	一、二八三	菊山、宿奥、觀音寺、笹岡
浮田村	三五四	一、七四八	中尾、沼、草ヶ部、谷尻、北方
平島村	三一五	一、五九二	砂場、西平島、南古都、東平島、浦間
御休村	三二三	一、五六五	檜原、矢井、淺川、寺山、四祖、一日市、吉井
角山村	三九〇	一、八四八	内ヶ原、才崎、竹原、百枝月
雄神村	四八五	二、四七五	西隆寺、福治、宮崎、久保、原
大寺町	一、〇五三	四、〇一六	
野村	四〇〇	一、八七一	中野、淺越、吉原、西庄、廣谷、松崎
可知村	四〇六	一、九三四	松崎新田、益野、大多羅、目黒、中川

富山村	三一〇	一、五一七	海吉、福泊、山崎、圓山
操陽村	二五五	一、二七一	倉益、倉富、倉田、
平井村	四五三	二、二六五	平井、湊
三蟠村	四〇一	二、〇〇九	江崎、江益、藤崎
沖田村	二九五	一、三七六	沖元、桑野
光政村	四〇三	二、〇一九	光津、政津
津田村	三五三	一、七五九	升田、君津
九蟠村	四〇二	二、〇六一	豐田、九蟠
金田村（かなだ）	一九三	九七二	
金岡村（かなおか）	三五九	一、六二八	

兒島郡

藤戸渡。山陽本線庭瀬驛より二里、宇野線茶屋町驛より約半里、藤戸村にあり、此郡は往昔大地と離れたる一島にして、其間に一條の海路を

通じ、舟にて往來するものは、常に此海峽を通過せしが、桑海の變、今は僅に名のみ口碑に傳へ、一縷の小流を剩すのみ。海峽は卽ち往時の藤戸の渡にして元暦元年（永治三年）九月の末、平左馬頭行盛朝臣、五百餘騎を引率して城廓を備前兒島に構へ遙に屋島の本營と通じ、源軍の西下を防がんとせり。此時源三河守範頼此地に來り海を隔てゝ對陣せしが、舟なくして濟るを得ず。時に二十五日の夜佐々木三郎盛綱只一騎打出で、彼浦人を語り直垂・小袖・大口・白鞘卷なんどを取らせつゝ

向の島へ渡る瀨はなきか、敎へ給はゞ猶申さん

と云へば、浦人答へて曰ふ、

瀨二ッ候、月頭には東が瀨に成り候、是は大根渡と申し、月尻には西が瀨に成り候、是をば藤戸渡と申す、當時は西こそ瀨に候へ

とかくて夜潛に土民を雇ひ、淺所を試み、翌日手兵志賀九郎・熊谷四郎・

高山三郎・與野太郎・橘三・橘五等六騎を率ゐて此所を騎り渡し行盛を走らしゝと傳へらる。今も藤戸の西方粒江村には盛綱の遺址と稱せらるゝ鞭木浮洲岩・引馬ヶ淵等を存せり。

大橋。往古の荒き瀨戸も年と共に埋沒して今は平野と變じ、其間に一の潮入川を存するのみ天城・藤戸の中間を流るゝものこれなり。寛永十五年池田由成居城せらるゝに及び、正保四年二橋を架す、一を大橋と稱し、長二十一間、幅一間一を小橋と稱し長十四間、幅二間なりしが、其後小橋は全く棄たれて道路となり、今は大橋のみ其名殘を止む。

經ヶ島。大字天城字片原沖にあり。昔は兒島の小島と稱へしとか。

夕ざれば鹽風寒し波間より
見ゆる小島に雪は降りつゝ

と賴朝の詠せしもこれなりと云ふ。丘上に二個の石塔あり、魚塚・經塚

と云ふ、鮮苔蒼々として色さびたり。又丘下に一小祠あり辨財天を祀る。

浮洲岩。藤戸村の西境粒江村にあり。往時海水滿つるや此岩、恰も海上に浮べる如く見えたりとて此名あり。豐太閤、此岩の一個を都に取り寄せられたりと、今醍醐三寶院の庭に存し藤戸石と稱せらる。其後寛永年中新田開發の頃より殘りの岩をも土中に埋め、今は其周圍沼となり、只其上に浮洲岩と書ける一個の標石を立つるのみ。（蕃山の書にて洲とせり）

藤戸寺。藤戸村大字藤戸にあり。眞言宗に屬し千手觀音を本尊とす、傳へ曰ふ、慶雲二年本尊千手觀音藤戸の海より出現せしを、行基菩薩の開きしものなり、後大同元年田村麿平城天皇の勅により造營し、後鳥羽院の御時大般若經六百卷を修め勅願となし給ふ、其後屢々火災に罹りしも、寛永八年池田忠雄中興し、天明元年治政公の再建に係ると、

寶物頗る多く古文書七通を初め、藤戸寺の圖畫、藤戸浦合戰、盛綱藤戸海先陣の圖、盛綱肖像、盛綱使用の轡、浦人使用の鰻かき等あり。

藤戸八景。河口靜齊の賦せる藤戸八景に曰く、

鹽干の歸帆、　鞭木の夕照、
浮洲の落雁、　經ヶ島の秋月、
藤戸の夜雨、　粒江の暮雪、
一松の晴嵐、　西明の晩鐘、

暇だにあらば藤戸廻りも亦興あらん。

大倭路の吉備の兒島を過てゆかば
つくしの小島おもほえむかも　（萬葉集）

常山城址。宇野線八濱驛附近莊內村大字用吉に常山あり、高さ一千十四尺、其山脈南に延きて仙隨山・瑜珈山となる。

常山城址は此常山にあり、上月隆德の居城地なり、隆德は三村家親の聟にして、三村氏亡びて備中の諸城皆毛利氏に屬せるに際し、隆德獨り降らず、是に於て小早川隆景大兵を率ゐて之を攻め、隆德遂に敗れて自盡せり時に天正三年。後隆景此城を宇喜多直家に與へ、直家更に其家臣戸川遠安をして守らしめたり。

八濱七本槍。八濱驛より凡一里、兒島灣の沿岸に八濱あり。此地は、天正九年宇喜多基家、秀吉の命により、毛利氏を討たんとし、却て輝元の將穗井田元清の爲めに攻められて遂に流丸に中りて死せる所、海濱に墓あり、此の戰に宇喜多氏の臣、能勢又次郎・宍甘太郎兵衛・馬場重介・國富源右衛門・岸本惣次郎・小林三郎右衛門・粟井三郎兵衛力戰して功あり世に八濱の七本槍と云ふ。

八濱水產試驗場。此地に明治三十五年四月設置せられしものにして

其重なる事項は左の如し。

牡蠣養殖試驗。牡蠣は本縣の沿岸到る處產出せざるはなき程なりしも、之が養殖を爲すものなく、茫漠たる潟地は、自然に放棄せられき。是を以て明治三十七年初めて邑久郡長濱灣に、次で小田郡生江濱、和氣郡片上灣に牡蠣簀建養殖試驗を行ひしに、何れも成蹟良好なりき。爾來沿岸は漸次養蠣事業勃興するに至れり。

海苔養殖及製造試驗。縣下の三大川及其他の河口には概ね淺海地域あり、淡鹹相交はり、海苔成育の適地少からず、而して兒島灣口の北半部は旭・吉井の河口中央に位し、古來海苔の生產あり、故に地を此所にトし、第一期の海苔養殖試驗をなせしに、成蹟良好なりしを以て、今や六十有餘町歩に簀を建設して盛に養殖採取せしめつゝあり。

鯉兒養成配付。明治三十七年以後鯉兒を養殖して毎年六十餘萬

尾の無代配付をなし、又稻田養鯉の實地模範を示し、或は採卵孵化及び飼養方法を傳授して養鯉思想の喚起に努力しつゝあり。

兒島灣。灣は東西三里十一町二十六間・南北二里十四町四十間・周圍凡十里三十町あり、御津・上道・兒島・都窪の四郡に挾まる。灣口東に向て狹く僅かに千餘間あるのみ、而して西に至りて漸く廣く其面積約一萬餘町歩を有す。灣內水產に富み、白魚・米鰕・鰻・沙魚・牡蠣・灰介(伏老)・藻貝・海月の類多く收利甚だ大なり。然れども干潮時に至りては全面殆んど干潟となり、且つ其土質は膏腴の粘土にして耕地に適するより、現時西方より區分をなし、埋立開墾することゝなれり。

高島。周圍十一町二十三間の小島にして一に竹島と稱す、兒島灣口にあり、甲浦村大字宮浦に屬し、神武天皇高島行在所候補地の一に數へられ、南面に天皇を奉祀す。

小串。灣口に横はり邑久郡の外波鼻(そとはのはな)並に上道郡の九蟠港と相對し、本縣良港の一なり此地に硫酸銅を以て人造肥料を造る所あり、爲めに其海岸に煙突數多く聳ゆ。

番田(ばんだ)の立石。鉾立村大字番田は小串の南にして、其東海岸に鉾島・冠岩・帽子岩等あり、又八丈岩の一山頂に巨石屹立し、高三丈餘、海上より遠く望見すべし、呼びて番田の立石と云ふ、又奇觀なり。鉾島は神功皇后三韓征伐の時、船を艤し給ひし地なりと傳ふ。

金甲山。兒島半島第一の高峯にして八濱町の東に屹立し高さ一千三百二十八尺、金甲とは八濱觀音堂圓通寺の山號なり、而して其山脈東に亘りて米崎(一に光明崎と云ふ)となり邑久郡と相對して兒島灣の口を爲せり。

宇野港。山陽の支線、宇野線の盡くる所、四國高松に通ずる要港を宇野となす。

宇野灣は兒島郡中部の南岸に位し、一葦帶水を隔てゝ、近く香川縣高松港と相對し、灣内水深く、潮緩かに、直島・葛島を始として、數多の小島前面に碁布し、然も半島・山嶺の餘脈、南に走つて灣の西北部を圍繞し、風浪を遮斷し、海陸自然と大小船舶の碇泊に適し、多少の設備を施さば、完全なる良港と爲し得るの形勢を示せり。かくて、明治三十二年築港の計畫成り、三十九年八月工を起し、四十二年八月竣功するに至れり、而して此れに要しゝ實費、參拾六萬貳千六百五拾四圓參錢壹厘(外に鐵道院停車場埋立費拾貳萬九千九百七拾九圓)の巨額なりと雖も、四万四千二百五十五坪の埋立地を得たり。猶此工事によりて灣内を内、外、二港に分ち、内港は、三万六千四百八十七坪の面積を有し、内海を航海する五六百噸の船舶碇泊を目的とし、又旅客の、昇降、貨物の積卸に便ならしむる爲め、棧橋を設

く。外港は、面積六十万坪を有し、大船巨船を寄港せしむるを得。寔に本縣十數の港中、規模最も廣大、加ふるに水深く、一大良港たるに辱ぢざるなり。

熊野神社。郷内村大字林にあり、味野驛より約二十町、伊弉諾、伊弉冊の兩尊を祭る、元は紀州熊野山を大寶元年勸請せるものにして熊野十二社權現と稱し、天神五代地神七代を祭りしものなるが、明治六年五月祭神を改め神社と稱するに至れり。

櫻井塚。此境内にあり、寶篋院塔形にして近年の建立に係る、宮は賴仁親王の御弟君にましまして、櫻井宮覺仁法親王と申し奉る。承久の亂、に兄宮此地に遷され給ひしより、慕ひて遙に此地に下向せられ、長弘三年三月二十八日御年六十歳にして林村尊隴院に薨じ給ひ、此所に葬り奉れりと言ひ傳ふ。

猶境内の前方に後鳥羽天皇御影塔と傳ふる多寶塔あり、前面に影像を鐫れり、帝延應元年二月二十二日隱岐にて崩去せられければ、翌仁治元年其月其日兩親王追福の爲めに建て給ひしものなりと云ふ。

五流。補陀山是如院の役行者の高弟五人(義學・義・玄・義眞・壽玄・芳玄)熊野本宮の神輿を奉じ、海に浮び内海を漂ふこと三年、遂に兒島に到着し、福岡(今熊野神社の有る地)に鎮座し奉る、熊野十二社權現之なりと、後、木見に諸興寺を立てゝ新宮に擬し、瑜伽寺を建てゝ那智に擬し、總て三山と稱す、而して此供人五人の家を五流公郷又は長床衆徒と云ひ、太法院・報恩院・建德院・傳法院・尊隴院と稱す、と、今尊隴院は市街の小高き所、小學校に接近して存せり。

諸社寺。郷内村には神社、佛閣甚だ多く

木華佐久耶比咩神社。字福江村福南山頂にあり。

天滿宮　字木見に在り。
八幡神社　字曾原に在り。
賴仁親王淨書と傳ふる大般若經百卷・高麗犬二基・西行法師腰掛石等あり。
福岡神社　字林、福岡山頂に在り。
城山神社　字串田、城山に在り。
素盞嗚神社　字串田及曾原に在り。
寶壽院（眞言宗仁平中開基）　字福江に在り。
眞淨院（仝）　字林に在り。
住心院（仝）　字木見に在り。
西方寺（眞言宗天平中開基）　字串田に在り。
一等寺（仝）　字曾原に在り。

大慈院（仝）　字植松に在り。
慈眼院（眞言宗應德元年開基）　字尾原に在り。

等其重なるものなり。

賴仁親王御陵。　林の宿を出づれば、道の左方に、五輪塔あるを見るべし、此れ冷泉宮賴仁親王の御陵にして、親王は後鳥羽天皇の皇子にましませしが、承久の亂に、義時の爲めに兒島に流され給ひ、遂に此地に薨じ給ひしなり。此地は古へ諸興寺の境內なりと云ふ。附近に藥師堂現存す。

瑜珈山蓮臺寺。　瑜珈山は半島の中央稍西邊にあり、標高千七十尺、山に蓮臺寺・瑜珈大權現・由加神社あり。

蓮臺寺は眞言宗の巨刹にして天平五年行基菩薩の創建に係り、僧正手刻の十一面觀音を安置す、後延曆年間坂上田村麿大に堂宇を修繕

し、數年を經て寺門一時頽廢せしを、應永年中讃州の僧畔僧正七堂伽藍を再興すと傳ふ、元と瑜珈寺と稱しゝが天和年中今の名に改めたり、寺域は山の半腹に位し、本堂・祖師堂・多寶塔・鐘樓・客殿・方丈・龍王堂・庫裡等あり、客殿には弘法大師生立の額面三十あり。鎮守堂に瑜珈大權現を祀る。

石川善右衞門成一の墓。文化三年の建立にして十一面觀音堂の右にあり、備前の藩士にして承應・寛文年中本郡の吏務となり、墾田治水の功業多く後世郡民の享けたる餘澤は甚大なり、其事蹟は碑の三面に刻まれたり。

由加神社。縣社にして彦狹知命・手置帆負命を祭る、元とは蓮臺寺に鎮座して瑜珈大權現と號せり。然るに王政維新となり神佛の混淆を禁ぜられしによりて今の地に移し、改稱せしなり。本社二神は、火災・盜難

其他の災厄を除き、之を祈るもの靈驗著しと稱し、信者甚だ多く毎月二十三日就中六月二十三日の春季大祭には賽人雜沓す。

田ノ口。宇野港より味野町に至る海岸に澁川・日比・田ノ口・下村等あり、澁川は近來開けたる海水浴場にして又四國に通ずる海底電線あり。日比・田ノ口・下村は共に南部の良港にして田ノ口は小倉織・眞田織の製織甚だ盛なり。海路より來りて瑜珈山に詣るものは、何れも此所よりす。

唐琴の泊。田ノ口の東に大字引網と稱する所あり、古の唐琴泊の地にして西國往來の埠頭として、船舶蟻聚し、大に繁盛を極めしと云ふ。

田ノ口の東數町は海山の風光絕佳にして唐琴の浦と稱す、豎場島の青螺は一里の沖合に浮びて恰も龜の背を干すが如く、讃岐の海岸近く南方に迫りて鹽飽の海は宛ら一小洲の如し。此の地は延喜の昔菅

公左遷の砌、此泊に着き、始めて琴の音を聞き、喜びの餘り命名せられたる所なりと云ふ。今海邊に久邇宮邦彦王殿下御筆の碑あり。猶古歌多し。道眞の國雅三章

舟とめて波のたゞよふ琴の浦
通ふは山の松風の音
風により波のをかけてよもすがら
汐や引くらん唐琴の浦
しらべよりけさ唐琴の聞ゆるは
春の夕日に引網の浦

其他

波の音のけさかくことに聞ゆるは
春のしらべやあらたまるらん

都までひゞき聞ゆる唐琴は
なみのをすとて風ぞ引きける

唐琴の碑の傍に小碑あり、明治三十三年の建碑にして西毅一氏の選文なり。

天滿宮　引網にあり。道眞公を祀る。公築紫左遷の折柄、此浦にて美妙なる琴聲松風と和し、雲間に鳴り渡るを聞き、深く感ぜられ、國雅三章を賦し、圓淨坊に贈らる、坊其德を仰ぎ公の滯在を進むと雖も五日にして去らる。後村民坊の境内に社を建つ、今の天滿宮の前身なり。境内に座論の梅と云ふものあり、卽ち八重梅にして菅公の賜ひしものなりと、一所に實八個づゝ連り結ぶと云ふ。

味野町　兒島郡衙の所在地にして、人口二千七百岡山より七里四町、宇野線味野驛より約三里許り馬車・人力車の便を有す。此地に猶岡山區

裁判所出張所・警察署・稅務署・專賣所味野支局・私設測候所・郡立商船學校・紡績工場等あり、製鹽の業甚だ盛にして多く諸國に輸出せり。

味野鹽田。　此邊一帶に製鹽業甚だ盛んなるが、これ偏に野崎武左衞門氏の賜ものなり。氏は初め家政甚だ裕ならず、妻の奩具を賣りて布に易へ、日夜妻をして足袋を製せしめ、自ら負ふて、之を近郷に行商すること數年、一日の如し。かくて收益漸く多く、其販路遠く、藝・讃・防・長に及べり。武左衞門此時思へらく、此れを資として公益を興すに若かずと、即ち製鹽の業を企て、官に請ひて、堤を築き、潮を揮き、拮据三年、鹽田十六町を得、野崎濱と稱せり。後、日比に數町を得、之を龜濱と命じ、又胸上・山田の地方に二十餘町を得て東野崎濱と曰へり、かくて其煮煎の松葉を石炭に代へしより、石炭燒の釜屋、漸次に起り、近年に至り其孫武吉郎、從前の石造釜を廢し、鉄造のものに改め、又天候の觀測に注意し

て、風雨の警報所を設けたり。

下津井町。　味野の南二里許、半島の西南端にして、四國街道の盡くる所四國航路の要津に當り、船舶常に輻湊せり。郡中第一の都邑にして今人口約七千五百人あり。

釜島。　釜島は周圍二十六町四十間の小島にして、鷲巣見鼻の東南約四町にあり、甲ノ浦村に屬す。天慶の亂に藤原純友、伊豫國日振島によりて亂をなせしに、伊豫守紀淑人に敗られ、此島に來り、城砦を構へたり。依て備前介藤原千高、播磨介藤原惟幹等之を討ち大に賊の爲めに敗らる。是に於て翌天慶三年追討使左衞門佐藤原倫實再び純友を此島に討ちしも官軍遂に利あらざりき。

生姫島。　福田村大字呼松の沖四町にある小島にして、中央に大松所得顏をなせり。此所は嘗て賴仁親王の王女の御誕生遊ばされ給ひし地

なりと傳へらる。

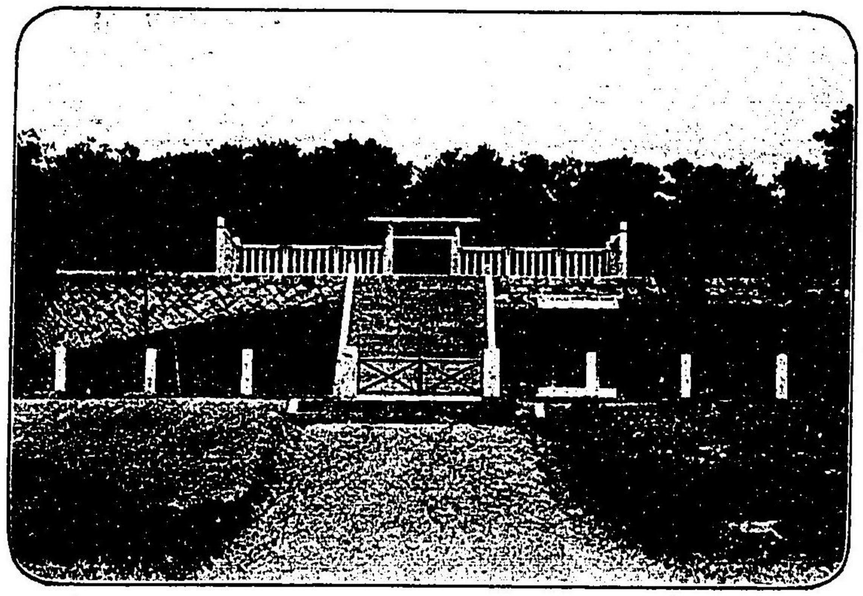
鯛網。宇野驛の西南、香川縣直島諸島より讃備の境界なる日比港沖合大槌島附近(驛を去る三海里)は、金山鯛の名産地にして、例年四月二十日頃より五月下旬まで、鯛網を行ひ、毎日、朝網・夕網の二回、宛、各所に於て投網し、一網數百尾の鯛を漁獲し、其光景實に壯觀を極め、遠近より態々之を觀んとて隊を組み、舟を雇うて漁場觀覽に出掛くるもの夥し、宇野港には是が爲め、鯛網遊覽案内所を設け、數十艘の遊覽船を備付け、最も輕便に待遇しつゝあり。

町村名及戸數人口、……四町十七村。

町村名	現住戸數	現住人口	大字名
味野町	六六五戸	二、六六五人	
赤崎村	四七六	二、二四七	赤崎、盛池

下津井町	一、四二五	七、四七七	下津井、大島、田ノ浦、吹上
本荘村	五一二	二、五六一	通生、鹽生、宇野津
福田村	一、九五二	九、八八〇	呼松、廣江、松江、東塚、南畝、中畝、北畝、福田古新田、福田、浦田
粒江村	四五四	二、三一三	黑石、八軒屋、粒浦、粒江
藤戸村	六一八	二、九二七	天城、藤戸
郷内村	九七一	四、八二八	串田、曾原、林、福江、尾原、木見、植松
興除村	一、六七六	七、九六四	西嶋、曾根、中嶋、内尾、東嶋
灘崎村	九二〇	四、四七八	片岡、宗津、迫川、奥迫川、彦崎、川張、西高崎
荘内村	一、一二〇	五、〇六一	宇薩木、用吉、木目、小島地、白尾、瀧、長尾、廣岡、東高崎、迫間、槌ヶ原
八濱町	七八七	三、六九六	八濱、波知、見石、大崎
甲浦村	八五五	四、〇一七	郡、北浦、宮浦、飽浦
小串村	八〇五	三、八二三	小串、阿津
鉾立村	五八〇	三、〇一一	番田、北方、上山坂、下山坂
胸上村	五八五	三、一七四	胸上、梶岡、東田井地、西田井地
山田村	五九四	二、六五五	山田、東野崎、沼、後閑、大蔵

宇野村	八三二	宇野、田井
日比町	一、〇二〇	和田、日比、游川、玉
琴浦村	一、八七五	引網、田ノ口、山村、下村、上村
小田村	八〇八	稗田、柳田、小川



吉備津彦命陵

高松城址

第三編　備中國

都窪郡

撫川町。吉備郡庭瀬町とは僅に板倉の一水を隔てゝ相接續す、岡山を距る二里八町、撫川團扇を名產とす。

坪井梅林。庭瀬驛の南二十町餘、福田村大字妹尾崎字坪井に在り。老梅數百株山に倚りて梅林をなす。山上に廬舍の設けあり、且、眺望絕美にして兒島灣の風光、岡山市の瓦甍等一々これを指掌すべし。

妹尾町。撫川町の南方にあり。岡山より兒島郡に通ずる四國街道の衝に當り、商業盛にして、牡蠣・灰介・鰻等の名產あり。

早島町。茶屋町と共に本郡南部の一市邑にして、花筵製織の業最も盛にして會社工場頗る多く、其產出の盛大なること縣下に冠たり。鄉社

を鶴崎神社と稱す。

早島町舊藩主戸川家庭園なる國鉾神社の藤は面積二町歩に餘り、白あり、紫あり、滿開の候、杖を曳くもの多し。

帶江觀音。一に不洗觀音と稱す。豐洲村大字中帶江村にあり、倉敷驛より東南一里餘、天正年中增慶上人の開基せるものにして之を祈れば安產の冥護ありとて、遠近來賽の子女多し。

蓮光山寶福寺。中庄村大字德芳字中尾にあり、古義眞言宗に屬し、藥師佛を本尊とす。

帶江銅山。倉敷の東南約一里、中庄村に有名なる銅山あり、汽車中より煙突を望み得。明治十年の開坑にして、現今坂本合資會社の所有に屬す。銀銅鉛を產し、明治四十二年の產額、

採掘高銅　一千三百三十二萬四千六百七十貫

精品高　八十六萬五千九百十九斤

價格　貳拾七萬參千貳百八拾四圓

に達せり。元と此地にて直に精煉せしも、現在にては邑久郡犬島に精煉所を置くことゝなれり。

日間山。帶江村字羽島の南に在り。山甚だ高からざれども一眸開豁頗る眺望の宜しきを以て名あり。藥師如來を安置す。而して往時此山は一の島嶼にして、日間島と稱したりと云ふ。

法輪寺。日間山の半腹に在り。眞言宗にして天平勝寶年間報恩大師の開基と傳ふ。寺の西邊に小野小町姿見井と稱するものあり。倉敷驛より東南約二十町。

倉敷町。倉敷驛のある所にして、岡山を距る四里二十六町、郡の南部に在り。備中國南部に於ける屈指の商業地にして人口一萬餘、倉敷川に

沿ひ舟運の利多く、且鐵道に依りて陸運の便を占む。加ふるに往時より富商豪家の多かりしを以て稱せられ、元と陣屋を置き、代官駐まり、備前・備中・讃岐三州散在の公料を管治したりき。今都窪郡役所・警察署・玉島區裁判所出張所・稅務署・組合立精思高等女學校・仝精思農商學校・倉敷紡績株式會社・倉敷織物株式會社・中備工業合資會社・倉敷銀行・倉敷商業銀行等あり。疊表・綿糸・綿ネル等の產業盛なり。

倉敷公園。市街の中央に位して一小丘を成せり、鶴形山と稱し老樹蓊鬱、これに登臨すれば全市は脚下に在り。

郷社阿智神社の外に觀龍寺（眞言宗）本榮寺（日蓮宗）地藏院（眞言宗）鏡善寺（一向宗）等あり、觀龍寺又名高し。

足高神社。倉敷の南大高村大字笹沖にあり、式内にして大山祇命を祭る。今縣社なり。此邊は元と此社の名によりて葦高村と云ひしを、隣村

大市村と合併して大高村と呼ぶに至れり。

酒津燒。中洲村大字酒津村は倉敷の西北約三十町、倉敷川と河邊川との分岐點にして、夙に酒津燒と稱する陶器を以て名あり。此陶器は日用品を製するを以て主とし、伊部・虫明のそれに比し、價額の低廉なるを以てよく世需に適す。

垂乳根櫻。清音村輕部神社境内に二抱程の枝垂大樹あり、垂乳根櫻と云ふ。花時一木悉く開けば、雪山の如く頗る見事なり。倉敷驛より北四十町。

輕部。清音村大字輕部の地は、赤磐郡輕部村と共に允恭天皇の朝、皇子木梨輕の御名代として定められたるものなり。

青江鍛冶。倉敷の北に管生村あり、大字子位庄は昔時名工匠の居りし地として名高く、青江鍛冶と稱す。後鳥羽天皇の御宇、安次と云へる劒

工あり、子を守次と呼び孫に貞次・恒次・恒眞・次家・眞次・康次・俊次・包次・爲次・家次あり、父子皆よく刀を作る。青江と其名を共にする片山鍛冶の遺跡は中庄村大字黑崎字片山にありと云ふ。

安養寺（あんやうじ）　同村大字淺原（あさはら）に在り。一に朝原（あさはら）寺と呼び、眞言宗に屬し、空海の開基にして賴朝公の再興と傳ふ。榮西十一歳の時安養寺靜心に就て學ぶと云ひ、又藤原成親、鹿谷の會合事件に依り備前に流されし時、此寺にて出家受戒せしと云ふ。誠に由緒古き精舍なり。國寶木造毘沙門天立像・同吉祥天立像あり。

福山城址　福山は山手村大字西郡に在り。山脈中の高山にして其巔に福山城址あり。城は建武三年官軍新田氏の將、大江田式部大輔氏經の拒守せし所なるが、五月十五日足利直義に攻めらる。氏經死を決して防戰し、竟に千餘騎を以て直義の大軍を衝きしも衆寡敵せず十八日には氏經備前三石城に走れり。

國分寺　三須村大字上林（かんはやし）に在り。天平九年僧行基の開基にかゝり、貞治中僧蟭蚌の重興とす。舊伽藍、僧寺、尼寺の遺礎並に石棺埋藏の塚墓等あり。寶物としては聖武帝宸筆の經偈、弘法大師筆五大尊像、智證大師筆虛空藏畫像等を收藏す。寺の東南に廂山（ひさし）、西南に福山を望み國府・一宮・高松等の名所に遠からず。又本村大字赤濱は僧雪舟の出生地なり。

雪舟　三須村大字赤濱の人にして、名は等揚、雪舟は其號なり。幼時吉備郡寶福寺に入りて僧となる。天性畫を好みて經卷を事とせず、屢々師僧の戒しむる處となりしも遂に其妙技によりて師僧をして責めざらしむるに至る。後、相國・建長の二寺に遊び、應仁中、明に航して四明山天童寺に上り、天童禪寺第一座となる。雪舟明に在る時、當時の能畫を求めて師とせんと欲すれども遂に得ず、よりて山水・遠寺・晚鐘・瀟湘の

風景を模して怠らず。歸朝の後、豐後に居り、後大内氏の聘に應じて山口に來り雲谷寺に住す、後、石見に赴き大喜庵に住し、永正三年二月十八日年八十七歳にて歿す、雪舟、禪に通じ、詩を能くし、畫に於ては、水墨に於て古今獨歩の稱あり、又庭園を築くの術に長じたりしと云ふ。

造山。　三須村にあり。高さ約四十尺、周圍約二十餘町、前方後圓の古墳にして、凡そ三段に築き上げ、各段ごとに、徑一尺五寸内外の瓶を正しく並列して、全塚を一周せり、其構造形式は應神の裳伏岡の陵、仁德の大山陵に酷似し、宏大雄壯のものにして、尋常の豪族等の塚とも思はれず。

山手村の古墳。　三ヶ所にあり、角力塚と云ひ黑姫塚と云ひ皇塚（すめらつか）と稱す。何人の塚なるべきか明らかならず。

日差山鷹の巣城址。　日差山は庄村字山地に在り。山上岩石重疊し、南方は遙に内海を隔てゝ四國の山々を望むべく、遠望に佳絶なり、山中に鷹の巣城址あり、天正の頃、毛利方の將小早川隆景、吉川元春等の來つて、秀吉と對陣せし所なり。

庚申山。　加茂村字新庄にあり、山高からずと雖も、眺望に佳なり、山上に帝釋大梵天を祭る。松樹鬱蒼、岩石峨々たり。

眞壁。　常盤村大字眞壁の地は、清寧天皇皇后なく、皇子なきに由りて御名代として定められたる白髮部の地なり、然るに其後光仁帝の御時、帝の御諱に觸れしを以て、白髮部を改めて眞髮部となし、後、地名を二字に改むることゝなり、今の文字に改めしものなり、而して此れと同意味の地、猶苫田郡芳野村大字眞壁、勝田郡勝田村大字眞壁等にあり。

町村名及戸數人口、……五町十四村。

町村名	現住戸數	現住人口	大字名
加茂村	五五五戸	二、八三八人	津寺、加茂、惣爪、新庄上、新庄下
撫川町	六〇八	二、八八四	下撫川、中撫川、大内田、日畑東組
庄村	一、〇七一	五、七六五	下庄、上東、松島、栗坂、山地、二子、矢部、四尾、日畑四組
中庄村	九八六	四、三〇一	中庄、黒埼、鳥羽、德芳
豐洲村	四八〇	二、二六八	西田、五日市、中帶江、高須賀、早高
茶屋町	九六四	四、五五八	帶江新田、早島新田
早島町	一、一九六	五、三四五	早島、前潟、矢尾
妹尾町	一、四七三	七、五一六	妹尾、箕島
福田村	五三二	二、八九三	山田、妹尾崎、大福、古新田
倉敷町	二、三〇五	一〇、八八七	
大高村	九〇一	四、七〇六	安江、沖、四十瀬、富井、福井、老松、西中新田、白樂市
滯江村	六五四	二、九七六	征沖、吉岡 羽島、二日市、加須山、龜山、帶高、有城
萬壽村	五九二	二、九一一	平田、大島、福島、淵、富久
菅生村	七九三	三、九二一	四坂、生坂、三田、淺原、子位庄
中洲村	八九一	四、五四八	水江、酒津、中島
清音村	五二〇	二、四九一	黒田、古地、上中島、輕部、三因、柿木
常盤村	五五一	二、七四三	三輪、眞壁、中原、溝口
山手村	四六一	二、一三五	地頭片山、四郡、岡谷、宿
三須村	五〇三	二、五二五	三須、上林、下林、赤淵

淺口郡

玉島町。鐵道岡山を距る十五哩七、地は實に備中國第一の要港にして人口二萬餘を有し淺口郡役所・警察署・區裁判所・稅務署・稅關監視署・岡山水上警察署・分署・實科高等女學校・生魚株式會社・備讃石油合資會社・石原花筵工場・高倉織物工場・倉敷紡績株式會社玉島工場・赤澤伸繼工場・玉島商業銀行・玉島銀行・甕江銀行等あり、海陸の運輸極めて便利に

して特に肥料の輸入甚だ盛なり。物産としては穀類・綿・繭・紡績糸・花筵等あり。

玉島港。港は江渠狀の小灣にして、港口正南に向ひ、長さ二海里、海水深く灣入す。往昔甕の泊と云ひ古歌あり。

こぐ舟に醉人ありときゝぬるは
もたひに泊るけにやあるらん

御調物運ぶ千船も漕出よ
もたひの泊汐もかなひぬ

此港より毎日二回多度津行の汽船あり海上二時半にして達すべく琴平參詣に便なり。（又明治の初め柏島の人四名此港より出でて臺灣に漂着し、臺灣征伐の近因となりしなり。）

羽黒神社。港に在り、素盞嗚尊・大國主命・玉依姫の三神を祭る。往時より此地の鎮守神にして、殊に舟人の崇敬厚し。本社・拜殿・額殿・神樂殿等又

觀るべし。

圓通寺。寺は玉島驛より南一里、玉島町大字柏島の丘上にあり海に面す、寺は曹洞宗に屬し、元祿年中の創建にして僧良高の開基に係る、老松蓊鬱、巨巖累々として、躑躅多く、四時の觀に富み、海望の勝、國中第一と稱せらる。本堂其他の堂宇二十五棟散在し、山を築き、池を穿ち、奇樹異草を其間に植ゆ、行基僧正作の聖觀世音を本尊とし、弘法大師作辨財天の像、伽羅木魚、金毛の拂子、其他佛器數點を藏す。

篦取神社。連島村大字西之浦に在り、豐玉姫命・玉依姫命・大綿津見命を祀る、社殿丘上にありて海望を以て名あり。

寶島寺。連島村に在り、眞言宗に屬し、承和年中の創設にして、僧聖寶の開基なり。寶暦・明和の頃、此寺の住僧寂嚴と云へるもの、梵學を以て著はれ、悉曇を論述せる遺編數種あり。

養父ケ鼻(琴ノ浦)。玉島停車場の南一里半にある勝地なり。全山古松を以て蔽ひ、山頂に戸島神社を奉祀す。此邊一帶の海岸を琴ノ浦と稱し、前に水島灘あり、源平の古戰場水島を望み、風光の絶佳なる、漫ろに遊客をして去るに忍びざらしむるものあり。且つ、貝拾ひに宜しきを以て晩春初夏の候、來遊の客多し。

萬春園。玉島驛の北六町、長尾村に在り。至珍なる草樹木石多く、殊に蘭萬年青に尤物多し。

泉勝院の櫻。金神驛より僅に數町、三和村大字占見にあり。寺は天臺に屬し細川頼之の祈願所と傳ふ。境内に櫻樹數百株を栽植し、花時の美觀言ふ可らず。

遙照山。鴨方村大字益坂の北に聳ゆる郡中第一の高山にして一千三百三十八尺あり、養子山とも云ふ。山上に一精舍あり。嚴蓮寺と號し、仁

明天皇承和十四年圓仁法師(謚慈覺)の草創に係り、天臺宗の古刹なり。本尊藥師は巨石にして、表裏二面を備へ、佛像を彫刻し、牡蠣其他の貝殼の附着せるを以て名あり。往時は山中盛大にして、伽藍もいみじう備はりしが、後世漸く衰ふ。山下占見村に山王權現あり、古の面影を存せり。

大谷金神。三和村大字大谷にあり。金光教會本部にして、金神驛は此れが爲めに設けられたり、金光教は嘉永年間金光大陣の創設したる一派にして、初め佛に屬し、明治六年改めて神社となす。月乃大神・日乃大神・金乃大神を三柱神として奉祀せるもの、信徒甚だ多く、他府縣を通じて、教會支部四十餘ケ所あり。毎歳春秋の祭日には、遠近の詣者雲集して其雜沓名狀すべからず。一書に曰ふ。

金光教は淺口郡の農夫藤井文次郎の創むる處にして、其說に、金光

大神は他の諸神と異なり、靈驗最も灼然たれば、之を信ずるものは、災厄凶禍にかゝるの憂なく、若し未だ信念を發せずして、疾に惱み禍を受けつゝあるものと雖も、一度之を信じなば、よく禍を轉じて福となすを得べしとて、嘉永年間より盛んに傳道を試む。

と、御影橋を渡りて行く程に敎殿・修行堂・修德殿あり。木綿崎山上には敎祖の墳墓あり。附屬事業として、明治三十八年より私立金光中學校を設立し、廣く一般の師弟を集めて敎育しつゝあり。志願者多數にして汎く全國より集ると云ふ。

鴨方。金神の次驛にして、同驛より僅に二哩二を距つ。村は驛を距る二十町なり、農工業を主とし米・麥・素麺・麥稈眞田・深田帽等を產す、觀生實科高等女學校・鴨神社・天神社・八幡神社・長川寺・淨光寺・正傳寺を初めとして附近城址多し。碩儒西山拙齋の出身地にして、翁の碑は鴨山の麓

に建てられたり。

西山拙齋。名は正、字は士雅、鴨方の人なり。父恕玄醫を業とす。拙齋幼にして學を好む、年十六にして、醫を大阪に學び、儒業を播人岡白駒に受け、又和歌に名あり。阿波侯・加賀侯嘗て禮を厚うして招聘せんとすれども皆辭して仕へず、寛政十年十一月五日、歿す、年六十四。人となり、方正敦厚。嘗て柴野栗山は、松平定信の問ひに對して拙齋は儒中の學德俱に尊き者なりと答へ、古賀精里は、君子の德ありて學亦純正なる者は、拙齋なりと評せり、然れども少時は、よく病み、よく怒りしが、後痛く自ら悔い、手から十戒を壁に貼し自ら警めしと云ふ。

加茂山城址。鴨方村大字鴨方にあり、細川下野守通董の居城とす。通董天文二年伊豫松山より移り住み、大島中村青位山・六條院西村龍王山等に砦を築き、鴨山を本城とし尼子晴久に屬せり。然るに晴久沒落せ

し後は、秀吉に從ひ、天正中朝鮮に陣沒す、其子庄九郎元通、文祿元年毛利輝元に從ひ朝鮮に出征し同三年歸朝せしも、慶長五年關ヶ原合戰に際し、遂に朝鮮に移れりと云ふ。

寄島港。鴨方停車場の南一里四町、玉島停車場の西南約三里許にして、玉島との間は縣道を通せり。郡の西南沿岸にある一邑にして、中國航海の汽船便あり、又、食鹽の產地として其名高し。

三郎島。寄島は港の東南二十町餘にある一島嶼にして、又其西南に三山と稱する三小島あり、島に奇岩矮松多く、且、眺望の雅趣あるを以て稱せらる。此島は三峰並立し、潮滿つれば三峰三島となり、潮去れば島脚一に歸す、其峰上に富士明神の祠あり。

沙美浦海水浴場。玉島の西南一里半、黑崎村に在り。山を背にし、老樹全山に繁茂し、翠色滴るが如く、海岸には奇岩起伏して、沙白く、水青く、西南には寄島を指すべく、遠くは水島、鹽飽の群島より讃豫の群峯を望見すべく、風光頗る佳、夏時來り浴するもの多し。往時鴨方の碩儒西山拙齋、梅を探りて此地に來り、詩を作りて居民淳撲の實狀を記す、倉敷縣令菅谷某、其美俗を嘉し、狀を以て聞し、證するに其詩を以てす、尋て其鄕民に白銀を賜ふ。後、鄕民相謀り、其賜金を資として、紀念の爲めに、池を八幡山の麓に堀り、稱して惠池と云ふ。

猶、黑崎の西方一里に阿倉の不動瀧あり。

水島の戰。水島は玉島港の西にあり、壽永二年平家の軍勢、此所は小島なれども水多しとて城に取立て、屋島の行宮を敵の進擊より防衞し、且內海を扼する要地となし、三位中將重衡を初め通盛・敎經等兵七千戰艦二百艘を以て之を戍らしめたり。閏十月一日、木曾義仲の先鋒、足利義淸・高梨高信・海野幸廣は、仁科盛家等と共に千餘艘の兵船を以て、

平軍と大に此地に戰へり。敎經善く戰ひ、海軍に長せる內海の武士は直に單に陸上の猛者たる信越の武士を敗れり。かくて源軍忽ち敗績し、義淸・高信・幸廣は戰死し、平氏の爲めに首級を獲らるゝもの三千餘級に及びたり。

池田鑛泉。富田村にあり、鹽類泉にして溫度攝氏十八度を有し、皮膚病・僂麻質斯に効あり。

町村名及戶數人口……二町十一村。

町村名	現住戶數	現住人口	大字名
玉島町	四、二三四戶	二一、七一九人	玉島、上成、阿賀崎、乙島、柏島、勇崎
連島村	二、一六六	一一、三四七	西之浦、鶴新田、龜島新田、連島ノ內矢柄、連島
河內村	六八〇	三、五八四	片島、西原、西阿知、西阿知新田
船穗村	一、二四七	五、五一九	船穗、水江、柳井原

長尾村	七三三	三、七八一	長尾、爪崎
富田村	九九三	五、二七七	八島、道越、道口、富
三和村	一、五四六	七、八八一	占見、占見新田、地頭下、上竹、下竹、八重、佐方、順惠大谷
鴨方村	一、六五七	八、五六四	鴨方、深田、小坂東、小坂西、地頭上、益坂、本庄
里庄村	一、一四六	五、八五三	新庄、淵中、里見
大島村	一、三二一	六、五六二	西大島、西大島新田、大島中
寄島町	一、三九四	七、三八九	
黑崎村	一、三四五	六、六九八	
六條院村	一、〇〇〇	四、八七六	六條院中、六條院東、六條院西

小田郡

笠岡町。今人口一万一千餘、本縣の西南に在る名港にして、市街東西に長く、南北に短し。海岸に山陽本線笠岡驛あり、交通の要路に當りて、商

業繁盛なり。然も、元と、代官出張所あり、維新の初め、小田縣廳を置き、備中全州並に備後の東六郡を管せしが、八年に至りて廢せられたり。而して、今も小田郡役所を始めとして、警察署・區裁判所・稅務署・町立商業學校・仝女學校・山陽製糸合資會社・福島紡績株式會社支店・笠岡桃酒釀造株式會社等あり。物産としては多く麥稈眞田を產し、又穀物・藍・生糸・花筵・紡績糸等あり。

笠岡港。港灣は西南に開き、神島埼を以て口と爲し、深入すること三海里、其幅約二海里、外灣は福山にして、南外海は備後灘なり。而して海口は停車場に近接せるを以て、海陸の交通至便なり、從つて大小和船の出入甚だ頻繁なれど、惜ひ哉港灣遠淺にして百五十噸內外の汽船を容るゝに過ぎず。讃岐の多度津とは海上僅に十里を隔つるのみなれば、金刀比羅參詣者は當港より乘船するを捷路とす。

遍照寺。笠岡町にあり、眞言の古刹にして、天正年間僧宥順の創建せるものなり。

笠岡公園。町の東端に古城山あり。此山、正保・元祿の頃には、海中の一山島なりしと云ふ。高さ三百尺、山容溫雅にして、老松蟠屈、頂に狐王廟あり、海山の眺望最も美と稱せらる。此所に城址あり、永祿年中村上高重の居城地にして、天正三年其子景廣も亦此城に居たり。後幕府の代官小堀新助・同作助等相續で此所に居り、又元和二年池田長幸の居城となりし事あり。現今公園となり、麓に鄕社笠神社あり、境內の櫻は、僅々十數株なれど公園の一景として珍重せらる。

甘露育兒院。笠岡町に在り、貧孤兒の收容救濟を目的とし、明治三十三年一月、津田明導の設立に係る、院內に四箇年程度の小學校を附設し教師を聘し、學齡に達したる院兒を敎育す。而して著實なる性格及忍

耐力、勤勞の觀念を養成せん爲めに麥稈眞田を編ましむ。又學齡に達せざる者は保姆をして專ら保育せしむ。其成績良好にして內務省・縣廳より奬勵金を賜はられたり。

神島。　笠岡港の南方を屏息する大島にして、長さ四十町・橫十二町・周圍四里四町、陸岸を距ること僅に百間許、殆ど連續の狀あり。島中山脈は東西に亘りて、此を南北の二部に分つ。北を內浦と云ひ、南を外浦と稱す。住民は多く漁業を營み又耕種を副業となす。內浦の東端、淺口郡と成せる海峽を神島瀨戸と云ひ、一に天神瀨と呼ぶ、幅員二町餘、附近風景絕佳にして、海水浴並に釣魚等に適せり、又海峽の西、松林の中に菅公を祀れる一小祠あり。外浦にも海水浴に適せる所少なからず、洲ノ丸・正砂濱・中村濱・鴨野濱・大道濱・榎の濱等あり。夏時來浴するもの甚だ多し。

高島。　神島の南十二町にありて神島外浦に屬す。其王泊と呼ぶ地は、上古、神武天皇駐軍の行在所たりし所なりと傳へ、往々土中より、古陶器を發見すと曰ふ。

白石島。　高島の南十三町にあり、周圍二里二十町、其東北海上二町餘の所に巨岩兀立す。之を沖の白石島と稱し、色白くして甚だ奇觀なり、又島の東北、海岸に弘法溪と稱する奇溪ありて僧空海を祀る、景勝尤も佳なり。

此他猶附近に北木島・眞鍋島・大飛島・小飛島・武島等あり、笠岡より小舟を艤して、此等島嶼の間を悠遊せば、眞に積日の勞苦を忘るるなるべし。

陶山岡城址。　金浦町大字西濱に在り。陶山義高の居城地にして、義高は元弘の亂に六波羅に隨從し、笠置合戰の時、小見山次郎と心を合せ、夜攻を以て之を陷れたり。其後赤松勢京都責入の時、力戰し功を以て備

中守とせらる、既にして六波羅陷りし時、義高は櫻山茲俊と陶山村有田に戰ひて死し、後其子次郎高直・孫高重相繼で此城に居たりしが、永正年中其嗣絶えたり。

桃李園。笠岡驛より東方約十餘町今井村大字廣濱にあり。同地の素封家渡邊諄一郎氏の所有にして、十餘町歩に亘る。桃紅梨白、花時の美觀思ふべし。

高稱寺の楓。吉田村にあり、眞言宗に屬す。庭に一株の大なる楓あり。高さ二尺内外の邊より枝葉を四方八方に出し庭園に擴かれり、晩秋の景謂はん方なし。

五花園の桃。笠岡驛より北方約一里、新山(にひやま)村大字山口に在り。同地長尾圓澄師の栽培にかゝり世人に知らる。十餘町歩の桃、一齊に滿開す。

小田渡。山陽街道小田村近傍其舊趾なるべし。古書に曰ふ、今の驛路は

此を渡らざれども、古へは是より南へ渡りて走出村(今北川村の字に走出村あり)木之子村(後月郡に木之子村あり)を西へ行きしなり。何時の頃にか、河の流れつきかはりて今の如くなれり。と、河とは小田川の事にして往昔は、今の國道を横ぎり、其河幅も廣かりしなるべし。夫木集に嘉吉の歌あり。

有明の月に夜深く出たれば
小田の渡に雁ぞ啼くなる

鵜江(う)神社。矢掛町大字小林にあり、式内神社にして、樂々森彦命を祭ると云ふ。鵜宮と稱し、昔、吉備津彦命此國の賊を擊ち給ふ時、賊、水に沒して逃る。樂々森彦命卽ち水を游ぎて之を逐ふ、狀鵜(う)の如く、遂に賊を捕へたりと。

矢掛町。玉島驛より三里とす。町は小田川に臨み、背には雄倉山を負ひ風景甚だ佳なり。郡の中央にして、山陽街道に沿へる市街なれば、往時